

愛知医科大学学報



令和2年度医学部卒業記念品
日時計（大学本館西側芝生）



令和2年度看護学部卒業記念品
災害救済用常備ツール収納ベンチ（医心館3階）

（関連記事12頁）

＝ 第162号 ＝

2021. 4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

愛知医科大学メディカルセンター開院	2
就任ごあいさつ	4
令和3年度入学式	5
令和2年度卒業式	8
令和3年度予算大綱	14
教授就任インタビュー	30
退職を迎えて	44
海外研修派遣研修記	53
Smile ～スマイル～	69
教育・研究最前線	71

愛知医科大学メディカルセンター開院

就任ごあいさつ



—「愛知医科大学メディカルセンター」が開院しました。—

愛知医科大学メディカルセンター
病院長 羽生田正行

令和3年4月1日、愛知医科大学にとって初めての分院となる「愛知医科大学メディカルセンター」が岡崎市北部に開院致しました。前身の北斗病院はこの地域で長年にわたり皆さまの健康を守ってきた病院ですが、このたび愛知医科大学の分院として、地域医療だけでなく専門性の高い医療も同時に展開できる病院として生まれ変わりました。メディカルセンターの開院を初めてお知りになる皆さまもたくさんいらっしゃると思いますので、今日は新しいメディカルセンターの概要と今後目指す二つの目標についてお話させていただきます。

「愛知医科大学メディカルセンター」の病床は急性期一般病床が90床、地域包括ケア病床が40床、回復期病床100床に医療療養病床が40床の総計270床で、いわゆるケアミックス病院です。北斗病院勤務の多くの職員に4月から引き続き勤務して頂いていますが、更に、愛知医科大学病院（本院）から医師・看護師を始め多くのコメディカル・事務職員の応援を頂いており、新たな人材の採用・育成を進めております。

本センターが目指すべき目標としては、まず第一にこのセンターを地域の皆さまに寄り添う、患者さん中心の医療を徹底的に追求する病院とすることです。内科を中心とした総合診療部門を窓口に必要な専門医まで繋がる医療を提供させていただきます。また、かかりつけ医との連携を密にして、循環型の地域医療システムの一員として岡崎北部、豊田南部の皆さまのお役に立つべく努力を重ねて参る所存です。

本センターは以前から整形外科、リハビリテーション部門が充実しており、現在も理学・作業療法士が50名以上在籍しております。この部門も地域医療には欠かせない部門と考えており、今後更に整備

を進めて参ります。

一方、要望の多い2次救急医療につきましても2年後を目途に365日対応できるよう準備を始めております。本センターはいわゆるケアミックス病院ですので、本院と異なり回復期病床や医療療養病床（慢性期病床）が稼働しています。急性期の治療が終わられた患者さんが、普通の日常生活に戻るまでの時間を有意義に、また快適に過ごして頂ける病院としてもお役に立ちたいと考えております。患者さんの人生・生活にしっかり寄り添うことで、地域にとって本当に必要な病院となれるよう歩み始めております。

二点目はこの病院を、若い医療人たちが新しい時代に即した地域医療を学び、実践する新たなフィールドとして将来にわたって育て、活用していくことです。本院では教育が難しい地域の方々々と繋がった医療、日常生活の中での一般医療を学ぶ場であり、また地域の医療が専門分野だけでは成り立っていかないことを学ぶ場でもあります。今後多くの若い医療人が、たくさんの患者さんとそしてこの地域とふれあい、温かみをもった医療人として活躍できるよう環境を整えていきます。

今後病院長としてこの二つの目標達成を追求しつつ、「愛知医科大学メディカルセンター」が岡崎市北部並びに豊田市南部のより良い医療体制の構築に寄与し、そして将来にわたりこれを担っていくという強い決意で病院の運営に臨む覚悟です。まだ開院後の日が浅く、目標が十分達成できていない部分が多々あります。愛知医科大学の職員はもちろんのこと医学部、看護学部の同窓会、父兄会の皆さまにもご意見を頂き、改善を重ねて参ります。どうぞ「愛知医科大学メディカルセンター」をよろしく願い申し上げます。

開院記念式典挙行

令和3年4月3日（土）午後2時30分から愛知医科大学メディカルセンターにおいて「愛知医科大学メディカルセンター開院記念式典」が、3部構成（式典、除幕式、記者会見）にて挙行されました。

開院記念式典には、4月初旬の繁多の中、中根康浩岡崎市長、山本公德副市長、柵木充明愛知県医師会会長、青山周平衆議院議員、重徳和彦衆議院議員、中根義高愛知県議会議員のほか、愛知県保健医療局健康医務部医務課長、岡崎市議会議員及び近隣学区総代、また、トヨタ記念病院副院長を始めとする近隣の病院長など60名を超えるご来賓の方々にご参加頂きました。大村秀章愛知県知事始め多くの方からの祝電も頂戴し、愛知医科大学メディカルセンターへの注目度の高さが窺い知れました。

式典では、祖父江理事長から、「メインコンセプトはFamily medicine（地域医療サポート）であり、今後、専門医療を展開し、救急医療体制の整備・災害医療体制での後方支援を充実していきたい。また、地域医療の教育施設として専門医養成の拠点として

活用していきたい。」とメッセージがありました。

ご来賓の方々からは、温かいご祝辞を頂き、地域医療と専門性の二局面をもつ愛知医科大学メディカルセンターの開院が、地域医療の充実に繋がるとの期待を改めて実感することとなりました。

最後に、羽生田正行メディカルセンター病院長から、ご来賓の方々への御礼及びこれからの本センターの在り方などのご紹介がありました。

式典を終え正面玄関にて除幕式、その後、祖父江理事長と羽生田病院長による記者会見を執り行い、無事に式典が終了しました。当日の記念式典及び除幕式の様子は、CBCテレビでのニュースや中日新聞、東海愛知新聞等の各メディアでもご紹介頂き、近隣住民の方へのアピールはもちろんのこと、愛知医科大学メディカルセンターで働く職員にとっても、学校法人愛知医科大学の分院としての誇りと今後の発展への意欲に繋がる新しい門出の日となりました。コロナ禍における式典ではありましたが関係各位のご尽力に心から感謝申し上げます。



愛知医科大学メディカルセンター



航空写真



開院記念式典での祖父江理事長ごあいさつ



除幕式の様子



—愛知医科大学病院の 持続的発展に向けて—

病院長 道勇 学

本年4月1日付をもちまして病院長を拝命致しました。愛知医科大学病院は今、世界中で猛威を振るうコロナ感染の大きな逆境にあります。我々病院職員は、この試練に対してより強靱な団結のもとに立ち向かい、新病院開院以来の着実な歩みを止めることなく更に進んで行く、私はその先導役であると認識しております。そして病院に掲げられた以下、八つの課題に取り組むことを既に開始しており、適正なガバナンスに基づくコンプライアンス向上とリスクマネジメント維持に努め、本院が持続的に発展していけるよう、任を果たしたいと思っております。

① 医療の質と安全性の向上

本院が目指すべき医療の質とは、医療安全管理能力に裏打ちされた組織としての総合的診療力であり、私は、全職員が高い医療安全に対する意識を持ち、安心・安全な業務遂行のための環境整備を行う所存です。

② 経営基盤強化に向けた効果的・効率的な人材配置

現在私は、診療領域別の診療収入に対する人的資源投入実態に関する検討を踏まえた職種別適正人員配置策の立案に取り組んでおり、今後、効果的・効率的な人材配置の根拠基盤を構築していく予定です。

③ 臨床医学研究・先端医療開発の充実

私は、多様な研究遂行ニーズに応じ本学に設置された研究支援体制の活用度を高めるべく病院環境の整備を適宜弾力的に行い、更なる臨床研究成果の向上を目指したいと考えます。

④ 有能な医療人の育成と活用

次世代を担う有能な医療人の育成は、本院に必須

の責務です。私は、アピール度の高い実習環境の構築を目指し、適宜、臨床指導體制の改善に努めていきたいと思っております。

⑤ 地域医療連携の促進

現在、「顔の見える連携」を掲げて病-病連携体制及び病-病間の医療者人材交流等を展開することにより相互利益関係が着実に構築されつつあります。今後はこれを診療、教育両面での有効な運用促進に繋げたいと考えています。

⑥ 救急医療体制の充実

本院にとって救急医療は生命線であり、今後は、24時間救急診療体制、内科当直体制、救急医療教育、そして医療連携の四つの観点から検討された新たな救急体制の構築・運用を本格軌道に乗せ、PDCAサイクルを回転させつつより強固で安定的な救急医療体制の確立および維持に努めたいと考えています。

⑦ 働き方改革への対応

医療者の働き方改革が急がれる昨今、私は病院職員の働き方を法律・規程に則り適正にすべく労働環境の改革整備を可及的速やかに進め、職種を問わず全職員の健康保持とワークライフバランス向上に努めたいと思っております。

⑧ 新型コロナウイルス感染症への対応

愛知県下におけるコロナ感染状況の動向はまだまだ定まっておらず、常に慎重な監視と適時の対応が引き続き求められます。本院は今後も継続的に全うし得る盤石な新興感染管理体制を有しています。今後も引き続き、この逆境に対抗すべく持続的対策を重ねていく所存です。

令和3年度愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



令和3年度入学式が、令和3年4月2日（金）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学生のみのお出席とし、座席は間隔を空けて着席し、ホールの窓を全開にして常時換気するなどの対策を行い、プログラムを短縮しての実施となりました。また、保護者の皆さまはじめ関係者の方々にも式典の模様をご覧頂けますようライブ配信を併せて行いました。

始めに、祖父江元 学長から告辞があり、医学部116名、看護学部104名計220名の新入学生を代表して看護学部の児玉あいさんから「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

最後に、医学部6学年次生の鈴木緑吹さんから「入学式を迎えられた皆さんは、今、希望に満ち溢れ、

大きな期待の中にあることと思います。しかし、大学に入学することは決して到達点ではなく、むしろ出発点です。皆さんはこれからたくさん学び、様々な経験を積みねばなりません。国家試験に合格することはもちろん、最終的には良き医療人となることを目標に、新たな場所での第一歩を踏み出してほしいと思います。これからの大学生活では、楽しいこと、嬉しいことがたくさん待っていることと思います。しかし、辛いことや大変なこともきっとあると思います。そのような時は、決して一人で悩んだりせず、先生方や先輩、同級生の仲間に頼ってみてください。きっと大きな助けになってくれるはずです。最後になりますが、在学生一同、皆さんの学生生活が有意義で価値のあるものとなることを心から願い、皆さんと一緒に大学生活を送れることを楽しみにしております。」と歓迎の辞が述べられ午前10時30分頃に式は終了しました。



宣誓を述べる児玉さん



鈴木さんからの歓迎の辞

学長 祖父江 元



学長の祖父江です。今日は、医学部・看護学部の入学試験を見事パスされ、ここに入学式を迎えられた皆さん、学長として、心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

今年の入学式は、新型コロナウイルスの蔓延が拡大しており、国や社会からの要請もあり、このような変則的な式になりました。晴れの入学式としてはやや寂しいところですが、皆さんがこの晴れの入学を迎えられたことを心からお祝いしたいと思います。

愛知医科大学のキャンパス再整備は、新病院の建設も含めて、一昨年にはほぼ完成しました。病院の医療設備も先端化しており、見違えるような環境になっています。特に教育設備は充実してきており、昨年の教育資源の世界ランキング評価では、我が国のすべての大学の中で14位になっています。また、一昨年には、医学部では医学教育分野別評価を受け高い評価を頂きましたし、2年後には、看護学部も看護学教育分野別評価を受けます。また昨年には、大学の教育・研究・運営の大学評価を受け良い評価で合格しています。臨床実習に重きを置いた国際基準にマッチした教育環境の整備が進んでいます。皆さんは、10年前には想像もつかなかった新しい教育環境の整った大学に入学して頂きました。

大学生活には、色々な側面や意味があり、それぞれの4年間、6年間、実り多いものにしてもらえればと思います。ここでは三つの点について述べてみたいと思います。

第一は、医師、看護師になるべく、各々医師国家試験、看護師国家試験が待っています。

これを見事にクリアしてもらいたいと思います。それをクリアすべく勉強する、努力する。これはこ

れからの大学生活の重要なパートだと思います。愛知医科大学にはそれぞれ指導するスペシャリストがいますので、安心して頑張ってもらえたらと思います。今年の医師国家試験の新卒者の合格率は98.2%で私立の医科大学の中では第3位、国公立を含めた80大学の中でも11位という素晴らしい成績でした。看護学国家試験の合格率は、最近5年間の平均はほぼ100%を誇っています。

第二は、友達を作る。

同じ釜のメシを食べて苦勞した仲間は、格別ですね。クラブ活動や色々あると思いますが、一生の友達ができることがあります。高校までと違って、大学の友達は、職業や研究のフィールドが共通しますので、長い付き合いになります。しかし不思議なことに、学生時代にはあまり親しくなかった友人でも、久しぶりに会って、同級生というだけで一気に近い感じになったり、仕事や研究の上で助けてもらったりということもあります。大学時代の友人は長い人生の中で大変重要な位置づけになると思います。

第三には、自分の目標を持つ。

自分は何をしたいのかを考える。明日の目標、今年の目標などありますが、皆さんには、できれば是非とも長いスパンで将来の目標を考えてほしいと思います。自分は将来何をめざそうとしているのかということです。どのような人になりたいかです。人生の中で大学時代はまたとない時間です。実はこのことが人生に大きなインパクトを与えます。

私自身のことを少し言いますと、大学生時代や大学院の頃に考えたことが、その後の長いキャリアの中でいつも深いところで生きていたと感じます。当時は、神経変性疾患（ALSや小脳失調症やアルツハイマー病）はほとんど治療法がない時代でした。私はそれなら逆に神経変性疾患研究をやってみたく

思いました。考えたのは、「なんとか神経変性疾患の治療法をみつけられないか。」、もう一つは、「神経変性疾患はがんと似ているな。」というものです。今から考えるとほとんど根拠がないファンシーなことを考えていたと思います。

しかし、その後、長らく経ってから、ある神経変性疾患の治療法の開発を進めることになりましたし、また、その後COEという大型研究プロジェクトを進めましたが、そのテーマが実は、「がんと神経疾患の共通分子による治療法の開発」というものでした。

後から振り返ってみると、あの若い時に考えたことが、その後、巡り巡って私の研究者のキャリアの

中で生きているように感じます。若い頃の感性というのは大事だと思います。

皆さんは、是非、10年後20年後のような長いスパンで目標を考えてみてください。私は、実現不可能と思えるような、よりファンシーな目標の方が良いかもしれないと思います。目標を立てることにより日常が活気づくと思います。また長いスパンの目標は、普段は忘れていても、長いキャリアの中で必ず生きてくると思います。大学時代は、後から振り返っても、大変重要な意味を持つのではないかと思います。

皆さんは、4年間、6年間で是非エンジョイして頑張ってください。

本日は、誠におめでとうございます。

大学院入学式

令和3年4月2日（金）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和3年度大学院入学式が挙行されました。【写真】

式では、看護学研究科修士課程13名、医学研究科博士課程26名の計39名の新入学生を代表して医学研究科の杉浦一優さんから「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。



続いて、祖父江元 学長から告示が述べられ式は終了しました。

令和2年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



令和2年度卒業証書・学位記授与式が、令和3年3月6日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業生のみのお出席とし、座席の間隔を空けて着

席することや、ホールの窓を全開にして常時換気をするなどの対策を行い、プログラムを短縮しての実施となりました。また、保護者の皆さま始め関係者の方々にも式典の模様をご覧頂けますようライブ配信を併せて行いました。

始めに、祖父江元 学長から、医学部卒業生109名を代表し河邊健人さんに、看護学部卒業生102名を代表し坪井志帆さんに卒業証書・学位記が授与されました。続いて祖父江学長から告辞が述べられました。

この後、在学を代表して看護学部3学年次生の池原詩菜さんから送辞が、卒業生を代表して医学部の大石紘之さんから答辞が述べられ、午前10時30分頃に式は終了しました。

告 示

学長 祖父江 元



学長の祖父江です。本日は、医学部・看護学部の課程を無事卒業され、ここに卒業式を迎えられた皆さん、それに保護者の皆さん、学長として、心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

この1年間、毎日がコロナ感染との戦いで、本当に大変だったと思います。授業はほとんどウェブになり、実習もほとんどできなかったと思います。何よりも大学に出てきて友達と会話をするのができなかったと思います。

今年の卒業式は、緊急事態宣言は解除されましたが、まだ感染拡大の恐れが残っており、このような変則的な式になりました。晴れの卒業式としてはやや寂しいところですが、皆さんがこの晴れの卒業を

迎えられたことを心からお祝いしたいと思います。この卒業式を迎えられたのは、皆さんの努力もさることながら、多くの人の支えがあったからだと思います。ご家族の方々、先輩や同僚の人たち、教員の方々、そして何よりも実習などで協力して頂いた、患者さんやその家族の方々など、改めて感謝の意を表したいと思います。これから皆さんは、社会人として、医療に携わるプロとして、新しい生活が始まります。改めて、この門出をお祝いしたいと思います。

私は、必ずしも熱心な野球ファンではありませんが、野球の話をしつめます。去年のプロ野球の日本シリーズは興味深かったですね。セリーグ代表の巨人が、パリーグ代表のソフトバンクに4立てで負けましたが、その内容は本当に惨憺たる負け方でした。第2戦は13対2の大差で、第3戦などは、危うくノー

ヒットノーランでした。

この後、ソフトバンク・パリーグはなぜ強いのか、セリーグはなぜこうも弱くなったのかという議論が出てきました。色々な議論がありますが、私の印象を一言で言うと変わろうと言う努力が実を結んできたのではないかと感じます。1990年代までのパリーグはむしろ人気という点で惨憺たるものでした。パリーグの試合はほとんどテレビ放送されませんでした。たまに放送されると、皆さんの年代だとあまり見たことはないかもしれませんが、球場は本当にガラガラで、まさに閑古鳥の状態、パリーグの全試合の観客動員数が、巨人1チームの観客動員数に及ばないというような有り様でした。これではいけないということで、パリーグの多くの人たちが改革に立ち上がったわけです。改革を始めておそらく30年近くになるのではないのでしょうか、指名打者、クライマックスシリーズ、セパ交流試合、選手の育成システムの改革、各チームのホームページの統一化、本拠地の地方都市への移転などなど、これら全ての改革は、いずれもパリーグから出てきたものです。

特に、本拠地の地方都市への移転は、大変大きなインパクトで、ソフトバンクが大阪から福岡へ、日本ハムが東京から札幌へ、更に楽天が宮城仙台へという移転は、地域を味方につけて、2019年の年間の観客動員数は、セリーグが1,400万人に対してパリーグが1,200万人に近づいて肉薄しています。30年近くに亘る、変わろうとする努力が、実を結んできているのではないかと感じます。

それは、あたかも生物の進化の中で、変わることができたものは、生き残り、変わらないものは滅びるということを目の当たりにしているような感じがありました。重要なのは失敗も多くあるということで、2シーズン制やマンデーパリーグなどは失敗に終

わっています。

これを見習うわけではないですが、我々もトライアンドエラーを進めて、新たな目標に向けて、自分や組織を変えていきたいと感じた次第です。トライアンドエラーは、むしろエラーに力点があると思っています。自分、組織、社会を変えていくこと、これをイノベーションと呼んでいます。

皆さんは、これから医療のプロとして、新しい生活が始まりますが、どう変わるかの目標を持って欲しいと思います。目標がないと変わりません。自分はどのような医師や看護師になりたいか？何をやりたいのか？何を目指したいのか？これに向かってどう自分を変えていくのか。研究で一発当てたいと思う人もいるかもしれませんが、神の手を持つ外科医になりたいと思う人がいるかもしれませんが、また、地域医療に一生を捧げたいと思う人もいるかもしれません。

私の人生を振り返っても、若いうちに考えたことが大事だと思っています。後で振り返ってみると、無意識のうちに若い頃に考えた目標や理想に長い時間をかけて近づいているのがわかります。できれば、皆さんには、20年後、30年後を目指す長い時間軸の目標を持って欲しいと思います。

最後にもう一つ、これも、皆さんへの期待です。皆さんの中から、愛知医科大学の次世代を背負う人がぜひ出てきて欲しいと思っています。私は、愛知医科大学は、今後更に大きく飛躍していくことが必要だと思います。そのための基本は、若い力だと思っています。皆さんは、その担い手としていつか愛知医科大学にぜひ戻ってきてほしいと思っています。

本日は誠にありがとうございます。皆さんの今後の活躍に期待しています。

看護学部3学年次生 池原 詩菜



冬の厳しい寒さも少しずつ和らぎ、穏やかな日差しに春の訪れを感じられる季節となりました。この良き日に、先輩方がご

卒業を迎えられましたことを在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今日ここに晴れの日を迎えられましたのも、先輩方を暖かく支えられてきたご家族の深い愛情や、先生方の熱心なご指導はもちろん、先輩方の日々の努力が実を結んだ結果であると思います。

今、この愛知医科大学で過ごされた日々を、どのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。勉学のみならず、クラブ活動、実習などを通して、日々新たな学びや発見、そして何より多くの出会いがあったのではないかと思います。大学生活での様々な経験を通して、改めて命の尊さを学び、医療の道を志したときの夢を、また新たなものにされたことと思

います。そして今、それぞれの夢と希望を胸に、新しいステージの一步を踏み出されようとしています。

この先進まれる道のりにおいて、幾多の困難や分岐点が待ち受けていることと思います。しかし、その時には、本学でいつも支えてくださった先生方、ともに支え合った仲間のことを思い出してください。本学で培われた知識、技術、倫理観、精神力を糧に困難を乗り越え、心温かく、信頼される医療者になられると確信しております。

私たち在校生は、新たな道への第一歩を力強く踏み出される先輩方の姿をお手本とさせて頂き、日々精進して参ります。

最後になりましたが、先輩方の今後のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

本日はご卒業誠におめでとうございます。



卒業生 大石 紘之



冬の寒さも和らぎ、暖かな春の日差しに満ち溢れる季節となりました。本日は、新型コロナウイルスによる非常事態の中、このように心温まる卒業式を挙げていただきましたことを、卒業生一同厚くお礼申し上げます。今日というこの佳き日に、私たち21名は愛知医科大学を卒業致します。

満開の桜の下、期待に胸を膨らませ、目を輝かせながらこの学び舎の門をくぐったあの日が、今懐かしく思い出されます。これまでとは異なる専門的な授業や、膨大な勉強量に戸惑い、四苦八苦しながらも数多くの試験を乗り越えてきました。そして病院実習では、実際に患者様と向き合い、教科書通りでは無い難しさを痛感しながらも、机上では学ぶことのできない、医療人として大切なことを得ることができました。

そして、集大成となる今年は、新型コロナウイルスの猛威にさらされ、大変な苦勞の多い年であったことが思い出されます。病院実習や講義が一時的に中止となり、先生方や仲間たちと顔を合わせることができず、迫りくる就職や卒業試験に対して絶えず不安と戦ってきました。不安を共有し、同じ目標に向かってともに歩み切磋琢磨してきた仲間たちの存在はとても頼もしく、顔を合わすことができなくて

も、固い絆でつながれていることを再確認することができました。また、このような状況の中だからこそ、私たちを支え、励まして下さった多くの方々へ感謝の念が絶えません。オンラインや電話などで激励の言葉をかけて下さった先生方、病院実習や講義などの準備をして下さった大学事務の方々、不安やイライラをぶつけながらも温かく受け止めてくれた両親と家族。そして常に気にかけて、応援して下さいった部活動の先輩方や後輩たち。皆さまのご支援のおかげで私たちはこの場に立つことができました。

さて、私たちは今、愛知医科大学を卒業し、医師、看護師としてのスタートラインに立ちます。ついに今までの努力が実り、夢が実現する喜びと、医療者として重責を担う緊張感に包まれています。いつまでもこの初心を忘れず、愛知医科大学で培った多くのことを糧とし、どんな壁にも立ち向かい乗り越えていきます。

最後になりますが、学生生活において多大なるご支援を頂いたすべての皆さまへ卒業生一同、心より感謝申し上げます。

そして、愛知医科大学の更なる発展をお祈り申し上げるとともに、本学卒業生として、その名に恥じぬよう日々努めていくことを誓い、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

大学院学位記授与式

令和3年3月6日（土）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和2年度大学院学位記授与式が挙行されました。【写真】

式では、看護学研究科修士課程修了者7名を代表して、小岩大介さんと、医学研究科博士課程修了者22名を代表して後藤礼司さんの2名に対し、祖父江元学長から学位記が授与されました。

続いて、祖父江学長から告示が述べられ式は終了しました。



令和2年度

医学部卒業記念品

日時計寄贈

令和2年度医学部卒業生からの卒業記念品として、大学本館西側の芝生に日時計が寄贈され、令和3年3月6日（土）の卒業式終了後に除幕式が行われました。【写真】

当日は、祖父江元学長、若槻明彦医学部長、伊藤恭彦教務部長、鈴木孝太学生部長、令和2年度卒業生を代表して、高田莉子さん、川瀬康平さん、大石紘之さんが出席しました。

高田さんから「アルベルト・アインシュタインは『過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。』という言葉を残しました。そんな彼は大学卒業後、自分になりたかった大学助手ではなく特許庁へ就職し、貧しい生活を送りながらも彼は諦めませんでした。彼はたっぷりとできた自由な時間を使って物理学の問題に取り掛かります。そうして生まれたのが、かの有名な特殊相対性理論です。私たちはともすると現状の生活に追われるあまり、与えられた情報を何の疑問も持たず受け入れてしまいます。彼の言葉は『考える』大切さを教えてくれます。自分の意思で考えるというこ



とは想像よりも難しく、常に意識する必要があります。私たちは愛知医科大学で医療を学び、また医師となる自分の人生について考え、6年間という時間を仲間とともに過ごしました。後輩たちに、物事に対して批判的吟味をしたり、分からないことを分からないままにせず考えることを忘れないようにして欲しいとの思いでこの言葉と、時間に関連した日時計を卒業記念品とさせて頂きました。」と贈呈の言葉があり、学長から「非常に含蓄の深い言葉で、とても意味の深い贈り物。今後困った時にはここにきて考える。そんな場所になるのではないかと思います。」とのお礼のあいさつがありました。

災害救済用常備ツール収納ベンチ寄贈

令和2年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、災害救済用常備ツール収納ベンチ1点が寄贈され、令和3年3月25日（木）に7号館（医心館）3階フロアにて除幕式が行われました。【写真】

除幕式には、祖父江元 学長，坂本真理子看護学部長，佐々木裕子教務学生部次長，篠田かおる教務学生部次長，長崎由紀子教務学生部次長，羽根田雅巳事務局長など本学役職者や看護学部教員及び令和2年度卒業生が参加しました。

始めに、卒業生を代表して宮田あすかさんから、「私たちは、COVID-19の影響により臨床実習に臨む機会が少なくなってしまうという異例な一年を過ごしました。しかし、この経験は、看護師になる上で生かせる経験であると感じています。この度、後輩たちが看護専門職者として携わる人々とともに健康を追求していくことができるように、また、明るく、楽しく、自らの目標とする看護師になれるよう



な学生生活を過ごすことができるよう願いをこめて『災害救済用常備ツール収納ベンチ』を贈呈致します。」との贈呈の言葉がありました。

引き続き、祖父江学長から「大変素晴らしい記念品を寄贈頂きありがとうございます。災害が起きることなく、ツールが使用されずに未永くベンチとして活用させて頂けるようお願いしています。」とお礼の言葉が述べられました。

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

本学近隣企業様及び関連企業様等から食料品等のご寄付について多数のお申し出を賜りました。

ご寄付を頂いた皆さまからのご厚意に深く感謝申

上げるとともに、前号に引き続き、掲載の許諾を頂いた企業様等の一部をご紹介させていただきます。(受領期間：令和3年2月1日～令和3年4月30日)

受領日	寄付者（業者名等）	物品	数量
2月1日, 2日, 15日, 24日 3月2日 4月6日, 14日, 21日, 27日	BENKEI	食品（菓子パン等）	480個
2月5日	焼肉屋華火	食品（焼肉弁当）	50個
2月17日	スキレットダイナー	ミニクラシックハンバーガー	50個
2月24日 3月3日	BAR Dino まる誠本店	食品（焼肉弁当・和食弁当）	100個
3月18日	株式会社セブンーイレブン・ジャパン	nanacoカード	2,400枚
3月23日	株式会社玉越	美容パック	2,596個

令和3年度予算大綱

令和3年度予算が、令和3年3月22日（月）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

教育の分野について、学生の講義は一旦全てWeb配信とし、臨床実習も中止となりました。その後、感染防止対策を行いながら臨床実習を再開するとともに、講義もWebと来学して聴講するハイブリッドの形式となりました。感染防止対策の一環として、通常講義の代替として使用してきたICT教育には、慣れていない点もありましたが、使用実績を積み重ねるに連れてメリットも判明し、今後、仮に新型コロナウイルスの流行が収束したとしてもこれまで通りの教育に完全には戻らず、ICTを利用した形が主流になると想定されます。

令和3年度は、更なるICT教育の改良・改善を模索するとともに、教育レベルの質的向上に務める施策に積極的に投資することとしました。

研究の分野では、私立学校法改正を受けて中期計画の策定が必須となりました。国立大学法人では、大学の価値創造をテーマに統合・報告を行うようになってきています。国公立・私立を問わず、大学が持つ知の価値についての重要性が急速に増していく傾向がある中、大学がどのように「価値を創造する」のか説明することが求められてきています。

Society5.0の実現にあたっては、科学技術イノベーションを駆動力として、知識集約型の新たな価値創造システムを構築する必要があるとされており、民間資金の投資先として魅力ある研究や人材を大学が獲得する必要があります。

本学では、令和3年度、日本造血細胞移植データセンターの誘致計画、研究創出支援センターの拡充によるバイオバンクの本格稼働及び私立大学研究ブランディング事業の業務遂行等、一層の研究体制の充実、更には高度な技術者の定着を図ることとしま

した。

医療分野では、2020年11月19日の「医療計画の見直し等に関する検討会」（厚生労働省）で、次期の第八次医療計画（2024年～2029年）から、新型コロナウイルス感染症に関連した「新興感染症等の感染拡大時における医療」を、六番目の事業として位置付けることが決まりました。改めて、五疾病（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、五事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）に新型コロナウイルス感染症に代表される新興・再興感染症対策を加え、五疾病六事業となります。

12月14日に開催された中医協総会では新型コロナウイルスへの対応に伴う診療報酬での追加措置が検討され、医科に関しては、六歳未満の乳幼児への対応及び転院を受け入れた保健医療機関に係る対応にそれぞれ加算を加えることとなりました。地域全体での医療資源は限りがあるため、新型コロナウイルス感染症の治療を余儀なくされる患者を受け入れる病院とその後の支援を行う病院の役割分担を更に進め、特に後者に関しては、より一層の感染防御対策の運用が求められ、相応のインセンティブが見込まれるところであります。本院、メディカルセンター及びメディカルクリニックにおいても、国あるいは愛知県の医療政策等に十分な注意を払い、決して乗り遅れることがないよう臨機応変に対応することが求められます。

令和2年度は、電子カルテサーバ・端末等の機器老朽化やシステム・ソフトウェアの陳腐化に対処し、信頼性と利便性の向上を図るため病院医療情報システムの更新を行いました。引き続き最先端の医療機器を整備し、最新医療を展開するために医療機器の年次計画更新も継続します。また、働き方改革に対応して、職員全体の勤務時間の適正化、ワークシェ

アリング、医師の超勤対策等への事業費を積極的に計上することとしました。

<主な事業>

教育・研究に関するもの

○教育環境の整備

- ・医学部・看護学部の出席管理システムと各教室のカードリーダーを再構築し、顔認証やWebによる出席確認が可能になる等利便性の向上が見込める。
- ・シミュレーションセンターの心臓病患者シミュレーターを買い替え、シミュレーション教育を充実させる。
- ・平成18年に導入された研究棟101・106実習室のAV機器を更新し、部屋の壁や天井の塗装工事を行うことで、教員・学生にとってより良い授業環境を構築する。

○研究環境の整備

- ・私学助成制度を利用し、高分解能網羅的蛋白分析、定量システムの質量分析計を更新する。
- ・本学に日本造血細胞移植データセンターを誘致し、2号館（管理棟）を整備する。誘致により、本学の教育・研究の進展と向上、診療の充実を図る。
- ・平成14年に設置された研究棟102・103・104号室の屋上排気フィルターを交換する。また、102号室に給気システムを整備し、より良い研究環境を構築する。
- ・空調設備を更新し、安定した動物飼育環境の確保と室圧エアバランスの調整により、臭気の改善を図る。

○研究活動の活性化

- ・新たな倫理指針が施行されるため、これに対応可能となるよう倫理審査申請システムの改修を

行う。

- ・私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。
- ・遺伝子組換え動物実験の利用増大に伴い、マウス胚操作システムを整備し、遺伝子研究活動の体制強化や飼育施設の省スペース化等の利便性向上を図る。
- ・研究創出支援センター機能の発展とバイオバンクの体制をより強固なものとするため、バイオバンク施設を改修すると共に、研究創出支援センターの教員と職員を増員する。

医療に関するもの

○スタッフの増員

- ・患者への栄養指導だけでなく、チーム医療における管理栄養士の役割と業務の拡大に対応するため、管理栄養士を増員する。
- ・体表面補綴外来の設立に向け、専任の医療職員を増員し、装具や再建部位の鋳型作成用の設備を設置する。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大への対応のため、臨床検査技師・臨床工学士・診療放射線技師を1名ずつ増員する。
- ・病院の退院支援の充実や愛知県の委託事業や地域医療連携に対応するため、社会福祉士を1名増員する。
- ・理学療法士2名を増員し、急増するICUにおけるリハビリ業務への対応と早期離床・リハビリテーションの更なる実施を目指す。

○診療活性化対策

- ・役割が拡大し、今後更に活躍が期待される診療看護師の手当を増額する。
- ・特定行為研修の領域として新たに創傷管理領域を設け、看護師の研修制度を充実させる。

- ・成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し、診療の一層の活性化を図る。
- ・新たに就任した教授の紹介動画やパンフレットを作成し、地域の医療機関や患者へ広く広報することにより、患者数の増加を図る。

○診療用機器等の整備

- ・老朽化した手術用顕微鏡を様々な機能を有し、より高機能で、高解像度の映像出力が可能な顕微鏡へ更新する。
- ・X線透視が必要な症例や救急患者の緊急検査に対応可能なX線透視装置を備えた内視鏡検査機を増設し、更なる検査数の増加を図る。
- ・がん拠点病院としての機能拡大に向け、がん治療の一種である温熱療法装置（ハイパーサーミア）を整備する。
- ・心臓CTの解析処理に使用するサーバーの更新とCT・MRIサーバーの統合を行う。更に、保存容量確保のためサーバーを追加し、利便性の向上を図る。
- ・老朽化に伴い、中央臨床検査部の生理検査情報システムを更新する。
- ・2014年から稼働しているNAVIT（患者案内端末）システムは老朽化してきているため、計画的な更新を行う。

○継続事業

- ・地域住民や連携病院、地域開業医への広報促進を継続して行い、アピールポイントを積極的に対外発信することで、「救急医療といえば、愛

知医大」というブランドイメージアップに努める。

- ・キャリアアップを目指す看護師のため、高度専門看護部門及び助産師奨学金制度を更に充実させる。

○病院運営管理の強化

- ・勤務医の働き方改革を推進し、質の高い医療を提供するため医師事務作業補助者を増員する。
- ・看護師の働き方改革を推進するため、看護補助者を増員し、看護業務のタスクシフト・タスクシェアリングを進める。
- ・BCP（業務継続計画）における災害対応事業として、防護衣の整備や地震への備えのため病棟の棚や家具の固定を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により延期となった病院機能評価（一般病棟3）を改めて受審する。

法人・大学運営に関するもの

○建物修繕

- ・特高変電所の特高変圧器3基の設置工事を行う。
- ・2号館（研究棟）の塗装補修を行う。
- ・電力監視装置の設計・更新を行う。

○その他

- ・人事・給与・勤怠システムの入替を行う。
- ・施設系ネットワーク機器更新工事を行う。

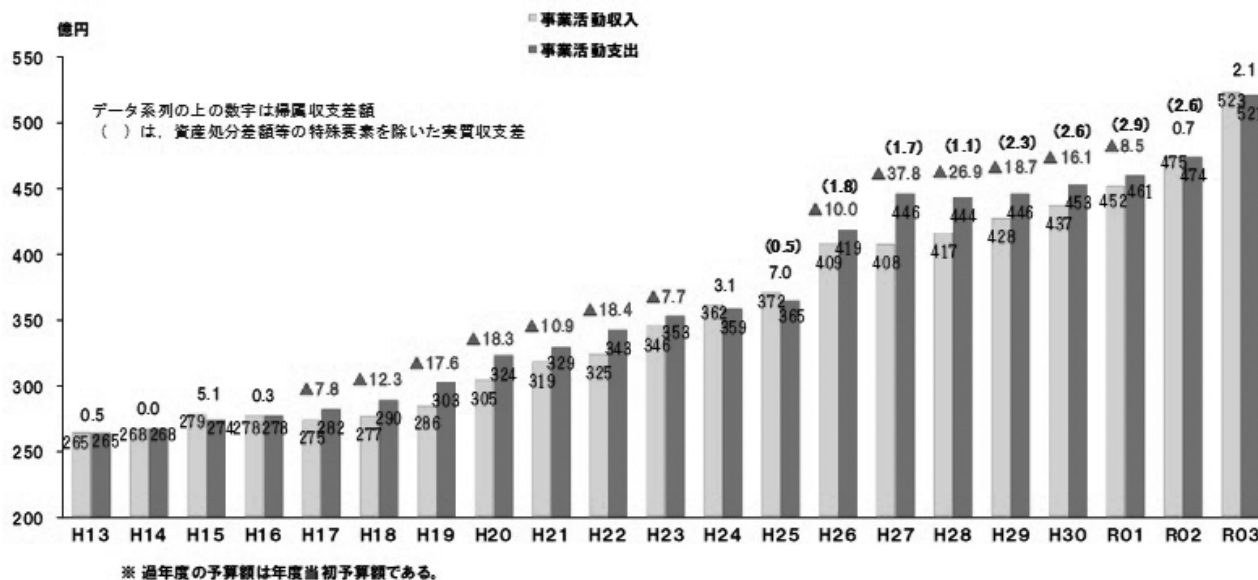
令和3年度の予算状況は、

事業活動収入 523億4,664万余円

事業活動支出 521億3,682万余円

となっており、事業活動収支差額は2億982万余円の黒字となっています。

(経常収支差額は3億4334万余円の黒字となっています。)



事業活動収支予算では、収入52,347百万円（前年度比7.96%増）、支出52,137百万円（前年度比7.97%増）となり、収支差は210百万円の黒字予算となっています。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入5,030百万円、寄付金収入398百万円、補助金収入2,566百万円、医療収入42,950百万円など資金収入合計54,300百万円となっています。

一方、人件費支出20,856百万円、教育研究費支出25,446百万円、管理経費支出944百万円、施設関係支出1,095百万円、設備関係支出1,896百万円、借入金等返済支出2,452百万円など資金支出合計53,910百万円となっています。

資 金 収 支 予 算

令和3年4月1日から

令和4年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
学生生徒等納付金収入	5,030,460	5,065,990	△ 35,530
手数料収入	238,142	240,610	△ 2,468
寄付金収入	397,500	426,950	△ 29,450
補助金収入	2,566,281	3,184,410	△ 618,129
資産売却収入	1,000,000	10,800	989,200
付随事業・収益事業収入	552,022	455,431	96,591
医療収入	42,950,269	38,436,575	4,513,694
受取利息・配当金収入	1,850	4,279	△ 2,429
雑収入	580,125	642,596	△ 62,471
借入金等収入	150,000	5,650,000	△ 5,500,000
前受金収入	993,058	947,545	45,513
その他の収入	7,737,559	10,632,701	△ 2,895,142
資金収入調整勘定	△ 7,897,078	△ 7,793,271	△ 103,807
前年度繰越支払資金	5,586,022	5,685,294	
収入の部合計	59,886,210	63,589,910	△ 3,703,700

支出の部			
科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
人件費支出	20,855,644	19,284,869	1,570,775
教育研究経費支出	25,445,767	23,706,260	1,739,507
管理経費支出	944,216	807,542	136,674
借入金等利息支出	255,367	269,547	△ 14,180
借入金等返済支出	2,451,846	1,771,846	680,000
施設関係支出	1,094,800	4,472,005	△ 3,377,205
設備関係支出	1,896,314	4,213,255	△ 2,316,941
資産運用支出	150,000	150,000	0
その他の支出	4,168,872	4,231,752	△ 62,880
〔 予 備 費 〕	200,000	400,000	△ 200,000
資金支出調整勘定	△ 3,552,747	△ 3,775,937	223,190
翌年度繰越支払資金	5,976,131	8,058,771	△ 2,082,640
支出の部合計	59,886,210	63,589,910	△ 3,703,700

事業活動収支予算

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

(単位：千円)

		科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,030,460	5,065,990	△ 35,530
		手数料	238,142	240,610	△ 2,468
		寄付金	399,500	420,500	△ 21,000
		経常費等補助金	2,507,803	2,736,406	△ 228,603
		付随事業収入	552,022	455,431	96,591
		医療収入	42,950,269	38,436,575	4,513,694
		雑収入	580,125	642,596	△ 62,471
		教育活動収入計	52,258,321	47,998,108	4,260,213
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		人件費	20,904,144	19,241,221	1,662,923
		教育研究経費	29,571,767	27,326,260	2,245,507
		管理経費	1,167,216	1,013,742	153,474
		徴収不能額等	18,332	16,070	2,262
		教育活動支出計	51,661,459	47,597,293	4,064,166
教育活動収支差額		596,862	400,815	196,047	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		受取利息・配当金	1,850	4,279	△ 2,429
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	1,850	4,279	△ 2,429
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		借入金等利息	255,367	269,547	△ 14,180
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	255,367	269,547	△ 14,180
	教育活動外収支差額		△ 253,517	△ 265,268	11,751
	経常収支差額		343,345	135,547	207,798
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	86,478	484,454	△ 397,976
		特別収入計	86,478	484,454	△ 397,976
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		資産処分差額	20,000	20,000	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	20,000	20,000	0
	特別収支差額		66,478	464,454	△ 397,976
	〔予備費〕		200,000	400,000	△ 200,000
基本金組入前当年度収支差額		209,823	200,001	9,822	
基本金組入額合計		△ 5,300,000	△ 6,000,000	700,000	
当年度収支差額		△ 5,090,177	△ 5,799,999	709,822	
前年度繰越収支差額		△ 62,905,361	△ 57,133,914	△ 5,771,447	
翌年度繰越収支差額		△ 67,995,538	△ 62,933,913	△ 5,061,625	
(参考)					
事業活動収入計		52,346,649	48,486,841	3,859,808	
事業活動支出計		52,136,826	48,286,840	3,849,986	

役員・評議員の異動

【理事】

辞任 藤原 祥裕（令和3年3月31日付）

就任 岩船 徹雄，道勇 学（任期：令和3年4月1日～令和4年1月27日）

【評議員】

辞任 藤原 祥裕（令和3年3月31日付）

就任 岩船 徹雄（任期：令和3年4月1日～令和4年1月27日）

訃報

祖父江逸郎名誉教授（元学長）



本学元学長であり名誉教授の祖父江逸郎先生が、令和3年3月29日（月）に逝去されました。享年101歳でした。祖父江元 理事長のご尊父です。

祖父江逸郎先生は大正10年3月19日に愛知県山田村（現名古屋市）に生まれました。太平洋戦争中の昭和18年に名古屋帝国大学医学部を卒業し、海軍に入隊。軍医として戦艦大和に乗艦し、レイテ沖海戦にも従軍されました。

戦後は名古屋大学に奉職し、医学部長や2度の附属病院長などを歴任されました。神経内科が専門で、難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）やパーキンソン病などの治療・研究に取り組みられました。

平成3年に愛知医科大学学長に就き、3期9年

間、カリキュラムの充実や学術国際交流の進展に努め、平成12年に開設した看護学部の設立に寄与されました。

昭和59年から昭和62年まで就任していた国立療養所中部病院長時代から、長寿社会の到来を見据えて本格的に「老い」の研究を始め、愛知県大府市に国立長寿医療研究センターが設置されるなど研究拠点の整備にも尽力されました。

平成22年から令和2年までは公益財団法人長寿科学振興財団理事長も務められました。

長年にわたり医学、医療の発展、向上に多大な貢献をしたとして、平成6年には勲二等旭日重光章を受章しています。

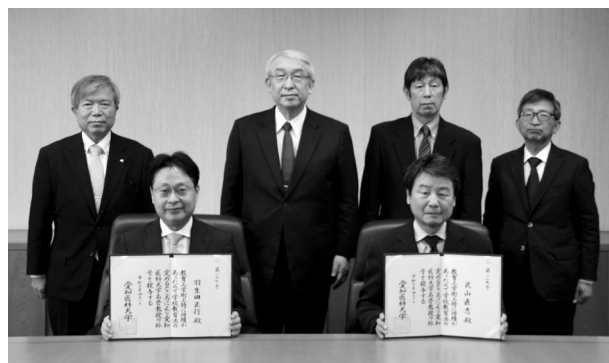
ここに祖父江逸郎先生に対する生前のご厚誼に感謝申し上げます。

名誉教授称号授与式挙行

令和3年3月31日付けをもって定年退職された羽生田正行教授（外科学講座（呼吸器外科））、中村二郎教授（内科学講座（糖尿病内科））、武山直志教授（救命救急科）に愛知医科大学名誉教授の称号が授与され、令和3年4月12日（月）正午から大学本館役員会議室1において授与式が行われました。

授与式には、祖父江元 理事長・学長を始め、若槻明彦副学長（医学教育担当）、島田孝一法人本部長、羽根田雅巳事務局長が出席し、祖父江理事長から称号記が授与され、記念撮影が行われました。

記念撮影後に予定していた、昼食を交えた懇親会



出席者による記念撮影

は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みから中止となり、授与式は終了しました。

平松礼二画伯 フランス国芸術文化勲章「シュヴァリエ」受章

平松礼二画伯が、フランス共和国政府より芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受章され、令和3年3月24日（水）にフランス大使公邸（東京都港区）において叙勲式が行われました。

この勲章は、フランス共和国文化通信省から与えられる勲章であり、「芸術・文化の領域での創造、もしくはフランスや世界での普及に傑出した功績のあった人物」に授与されるものです。

平松画伯は、新病院（中央棟）開院に伴い、多くの絵画等をご寄贈頂いており、中央棟2階での展示の他、中央棟3階及び14階には「平松礼二ギャラリー」を設置しており、患者さんを始め、来院され



叙勲式にて

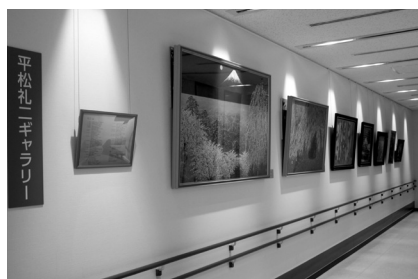
る方々の癒しの場所となっております。

この度は栄えあるご受章、誠にありがとうございます。ますますのご健勝と更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

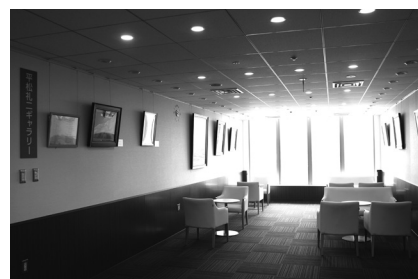
[平松礼二ギャラリー]



中央棟2階



中央棟3階



中央棟14階

主な役職者の改選

○ 大学

【副学長（診療担当）】



道勇 学

(内科学講座（神経内科）・教授)

この度、副学長（診療担当）を拝命し、身の引き締まる思いです。新型コロナウイルス感染の甚大な試練の只中にあっても、本院がより強靱な全職員団結のもと新病院開院以来の着実な歩みを止めることなく持続的に発展して行けますよう、先導の任を果たしたいと存じます。

(新任, 任期: R3.4.1 ~ R5.3.31)

【副学長（特命担当）】



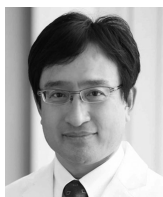
笠井 謙次

(病理学講座・教授)

本年度より公的研究費管理・研究不正防止等担当の副学長(特命担当)を拝命しました。従来より本学では研究費の適切な執行と研究倫理に則った研究活動が実施されていますが、昨今の文科省関連規定・ガイドラインに沿って、更なる学内研究環境の改善に取り組んで参ります。

(新任, 任期: R3.4.1 ~ R4.3.31)

【副学長（特命担当）】



春日井邦夫

(内科学講座（消化管内科）・教授)

引き続き、副学長（特命担当）を拝命致しました。今年度より男女共同参画の推進とともに、本学のすべての職員が能力と個性を十分発揮できる環境を実現するために、ダイバーシティ推進委員会を発足させます。また、教員評価の改善も含めて、愛知医科大学の更なる発展に貢献できますよう取り組んで参ります。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R4.3.31)

【研究創出支援センター長】



武内 恒成

(生物学・教授)

研究創出支援センターではここ2年間、バイオバンクの立ち上げと充実、および本学に即したURA体制を見据えた整備を進めて参りました。大きく変化を遂げつつある国内外の研究環境下において、研究支援、バイオバンク、共同実験の各部門からなる同センターとして、グローバルに最先端の情報を取り入れつつ、学内研究力の質的向上と成果の社会還元に向けて貢献して参ります。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R5.3.31)

【国際交流センター長】



渡辺 秀人

(分子医科学研究所・教授)

本学の国際交流活動を統括する国際交流センターは、学生・教職員の国際交流、学生・教職員向けの語学力向上、異文化理解等を目的としたセミナーの開催、外国人研究者の支援等の事業を行っています。どうぞ宜しくお願いします。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R5.3.31)

【産業保健科学センター長】



鈴木 孝太

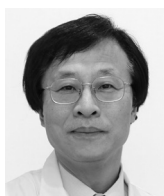
(衛生学講座・教授)

引き続き、産業保健科学センター長を拝命致しました。働き方改革やリモートワークの普及など、社会の変化とともに移り変わる多様な労働状況を客観的に把握し、科学的なエビデンスを基に、働く人々の健康増進、疾病予防を推進し、社会に貢献して参りたいと思います。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R5.3.31)

○ 医学部

【教務部長】



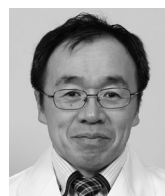
伊藤 恭彦

(内科学講座(腎臓・リウマチ膠原病内科)・教授)

引き続き、教務部長を拝命しました。グローバルスタンダードを目指した医学教育を推進し、2020年度良好であった国家試験の成績を更に伸ばしたいと考えております。新型コロナウイルス対策を十分行い、実習、講義をできる限り対面で進める方針です。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R4.3.31)

【運動療育センター長】



牛田 享宏

(学際的痛みセンター・教授)

コロナ禍で患者さんだけでなく健常者の方においても活動性の低下から運動系の障害(ロコモ)やメタボになる方が増えてきています。センターではそれぞれの方の状態に応じた適切な運動処方を行い、QOLの向上でもって皆さまに役立てていきたいと存じます。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R5.3.31)

【薬毒物分析センター長】



妹尾 洋

(法医学講座・教授)

中毒事例に対応できるよう、高度救命救急センターとの連携を密に取りながら取り組んでいきたいと思っております。

(再任, 任期: R3.4.1 ~ R5.3.31)

【医学教育センター長】



早稲田勝久

(医学教育センター・教授)

2020年8月より医学教育センター長を前任の伴信太郎先生より引き継ぎ、2021年度も引き続き拝命しました。昨年からの継続するCOVID-19の影響で、本年度も通常通りの対面講義・実習を行うことは難しい状況です。この困難をチャンスに変えられるよう、医学教育センターは様々な工夫を皆さんに提案できればと思っています。

(再任, 任期: R3.4.1~R5.3.31)

【シミュレーションセンター長】



早稲田勝久

(医学教育センター・教授)

2021年4月よりシミュレーションセンター長を前任の伴信太郎先生より引き継ぎ、拝命しました。COVID-19の影響で時間外の使用が制限される一方で、病棟など現場での実習不足を補うなどのために、シミュレーションセンターの使用頻度は高くなっています。今後も施設・研修内容の整備と充実に努めていきたいと思っています。

(新任, 任期: R3.4.1~R5.3.31)

学校法人愛知医科大学「過半数代表者」選挙実施

本学の過半数代表者に、石居謙太郎さん（病院事務部病院管理課・主査）が立候補し、令和3年3月4日（木）午前9時から3月8日（月）午後4時までの信任投票において、信任1,308票（有権者数2,562名（過半数1,282名））を獲得し、選任されました。任期は、令和3年4月1日から2年間です。

労働基準法では、36（サブロク）協定を始めとした労使協定等を締結する場合、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合にはその組合、ない場合には、労働者の過半数を代表するもの（以下「過半

数代表者」といいます。）と締結する必要があると定めています。

過半数代表者の責務は、①労働基準法で定められた書面による協定の締結、②就業規則の作成又は変更についての意見書の提出、③安全衛生委員会委員の推薦その他法令で定められた権限の行使等です。また、労働基準法施行規則には、選出方法として、過半数代表者を選出することを明らかにして実施される投票等の手続きによって選出しなければならないことが定められています。

公益財団法人大学基準協会—大学評価適合認定—

本学では、学校教育法に基づく大学評価制度による公益財団法人大学基準協会における2020(令和2)年度大学評価(認証評価)として、令和2年10月11日(日)・12日(月)に実地調査を受審した結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。認定期間は、2021(令和3)年4月1日～2028(令和10)年3月31日までの7年間になります。

また、大学運営審議会においては、実地調査において指摘のあった事項への対応として、「内部質保証の方針」、「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を制定・周知するとともに、評価結果に付せられた是正勧告(1件)、改善課題(3件)について、



大学基準協会の認定証

両学部・両研究科と連携を図りながら、改善対応を進めています。

大学運営審議会～新メンバーでスタート～

学長及び副学長を中心に大学の重要事項及び将来構想等を審議する組織として、平成28年4月1日付けにて設置された「大学運営審議会」は、毎年度20回程度開催され、各種規則の改廃に係る審議のほか、副学長から学部・病院の動向や課題等について随時報告がなされ、両学部間での情報共有が図られています。

今年度は、大学評価、医学教育分野別評価受審後の改善課題への対応、看護学分野別評価の受審準備、病院機能評価の受審、メディカルセンター関連事項など、構成員各人が多忙の中ではありますが、様々な課題への迅速な対応を重視し、開催時間を調整しながら積極的に開催していきます。



<構成員>

学長	祖父江 元
副学長(医学教育担当)	若槻 明彦
副学長(看護学教育担当)	坂本真理子
副学長(診療担当)	道勇 学(新任)
副学長(特命担当)	春日井邦夫(再任)
副学長(特命担当)	笠井 謙次(新任)
事務局長	羽根田雅巳

連携大学院方式の導入

～（一社）日本造血細胞移植データセンターとの連携講座設置～

令和3年度に本学では、研究機関の研究者を大学の教員（連携教員）として迎え、その機関の研究環境を活用しながら研究指導等を行う、大学院教育の方式の一つである「連携大学院方式」が導入され、本学初の試みとして一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）と連携・協力に関する協定書が締結されました。

この協定に基づき、本学の教育・研究の進展及び充実を図ることを目的として、「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」が設置されました。

JDCHCTは、造血細胞移植を受けた患者、並びに造血細胞を提供されたドナーの情報を収集し、集計・解析することにより、治療成績及び安全性の向上を図り、患者及びドナーの福利に資するとともに広く造血細胞移植の研究、教育、診療の質的向上を目的としており、そのデータ蓄積数は約100,000件にもなる全国でも稀有な組織です。全国の約400の

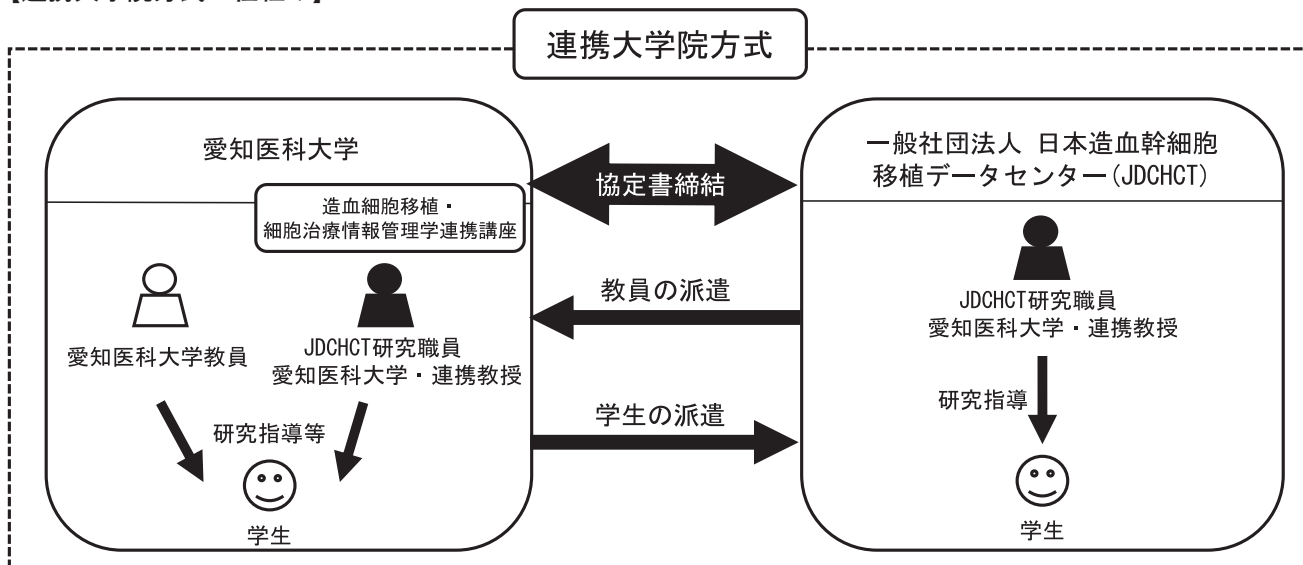
施設（大学、病院等）からデータが蓄積されており、一部は国の支援事業として実施されています。また、細胞移植に関する全国的な共同研究の中心的役割を担う同センターから、年間約50編もの論文が発表されています。

このJDCHCTのセンター長である熱田由子氏が本連携講座の教員（連携教授）となり大学院の授業科目を担当します。この講座で大学院生は、JDCHCTが持つその分野の最先端レベルの資源を活用した研究指導等を受けることができます。

連携大学院方式を活用した大学院への入学については、令和4年度の入学に向けて募集を開始しますが、研究意欲の高い方が多数応募されることが期待されます。

連携大学院方式の導入により、研究指導が行われるフィールドが発展的に広がる第一歩が踏み出されました。

【連携大学院方式の仕組み】



文部科学省「感染症医療人材養成事業」採択

本学では、医学教育センター及びシミュレーションセンターが中心となって立案し、文部科学省「感染症医療人材養成事業（令和2年度第3次補正）」に応募した結果、本学の申請事業が採択されました。文部科学省からは、本事業に対し全国の大学から78件の申請があり、教育内容や事業の継続・普及の構想等について、特に優れた38件の事業が採択されたとの通知があり、本事業に係る本学の交付予定額は1億円を超えるものとなります。

本事業は、感染症の診断や感染症の特色を踏まえ

た対処法等に関する教育プログラムを新たに導入し、その一環として、新たな教育の課程で必要となる医療用シミュレータや音声・映像録画機器等の実習用周辺機器を整備し、感染症に関するより高度な知識を身に付けた医療人を養成することを目的としています。医学部学生や看護学部学生のみならず、若手医師、看護師の他広く医療人を対象として実施される事業となります。皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

先進糖尿病治療学寄附講座設置

本学医学部では、教育・研究の進展及び充実に資することを目的とし、企業又は個人等からの寄附金を受け入れ、これを有効に活用して「寄附講座」を設置し、教育研究活動を行っております。

令和3年4月1日付けで医学部に新たに寄附講座を新設しました。新設講座である「先進糖尿病治療学寄附講座（英文名：Department of Innovative Diabetes Therapy）」の概要は次のとおりです。

1 設置目的

我が国のみならず世界的にも糖尿病患者数が増加しており、将来的な糖尿病性合併症の発症・進展を如何に抑えるかが重要な課題である。しかしながら、糖尿病性合併症の発症メカニズムの詳細については未だ不明な点も多く、この分野における研究の更なる進展が期待されている。我が国のみならず世界的にも糖尿病性合併症研究の第一人者である本講座の主任研究者が中心となり、国内外の研究者と共同して研究を推進することにより、糖尿病性合併症の発症機序の解明、更には新たな治療法の確立につながることを期待される。

2 設置期間

令和3年4月1日から令和6年3月31日まで
(3年間)

3 職員等

教授 中村 二郎

4 寄附者名

- ・ 小野薬品工業株式会社
- ・ アボットジャパン合同会社
- ・ 株式会社三和化学研究所
- ・ 興和株式会社
- ・ テルモ株式会社

4大学合同ワーキング実施 ～災害時のトリアージ・応急手当てを楽しく学ぼう～

長久手市に設置されている4大学（本学，愛知県立大学，愛知県立芸術大学，愛知淑徳大学）において、「長久手市大学連携推進ビジョン4U」を策定し，連携事業が実施されています。

その事業の一つとして，例年各大学がそれぞれの特徴を生かした「4大学合同ワーキング」を実施しており，本学は，令和3年2月6日（土）に「災害時のトリアージ・応急手当てを楽しく学ぼう」をテーマに実施しました。

ワーキングでは，本学医学部・看護学部の学生が指導役となり，ビデオ会議システム「Zoom」を用いたオンラインにより，連携する他大学の学生や大

学連携事業の関係者，長久手市民に対して，説明・演習が行われました。

今回は，どのような症状や病気が「緊急度」が高いのか，また，どのような対応が望ましいのかについて説明が行われましたが，オンラインであっても参加型になるよう，動作をまねしてもらい，説明用のスライドを手持ちの紙芝居風にするなど，学生らしい工夫を凝らしたものとなりました。

参加者からは色々な質問があり，本学学生にとっては新たな学びの機会となりました。

今後も様々な取り組みが予定されていますので，地域における本学学生の活躍にご期待ください。

認知症サポーター養成講座開催

長久手市役所長寿課と長久手市社会福祉協議会による認知症サポーター養成講座が，令和3年2月24日（水）に看護師を対象に，3月10日（水）に看護学部教職員を対象に開催されました。

厚生労働省は，認知症に対する正しい知識と理解を持ち，地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し，認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組むことを目指しています。認知症サポーター養成講座は，全国の地域住民，金融機関やスーパーマーケットの従業員，小・中・高校の児童・生徒など様々な方が受講しています。

2月24日（水）は，午後4時30分から午後6時までZoomにより開催され，看護師9名が参加しました。受講後のアンケートの中で「患者さん対応に役立ったことは」に対して，「認知症の方と接する際の心構えやポイントを学べた。」，「自尊心を傷つけない接し方が大事であることを学べた。」等の感想がありました。

3月10日（水）は，午後3時から午後4時30分まで，大学本館たちばなホールにおいて開催され，看



職員による声かけ体験の様子

看護学部教職員34名が参加しました。講座の中では「声かけ体験」が行われ，長久手市民ボランティアが演ずる寸劇を通して，職員が認知症の人への望ましい対応と望ましくない対応を学びました。受講後のアンケートには，「寸劇を通して分かりやすかった。」，「住んでいる地域で迷っている認知症の方がいたら声かけしたい。」等の感想がありました。

受講者には，認知症を応援する意志を示すブレスレット（オレンジリング）が配布され，今回の学びは院内や学内だけでなく，地域社会にも活かせる講座となりました。

情報セキュリティ講演会開催

総合学術情報センター（情報基盤部門）では、令和3年3月4日（木）午後5時30分から、全教職員及び学生を対象に情報セキュリティ講演会（SD研修）が開催されました。今年度は、コロナ禍によりマルチメディア教室での対面に加え、オンラインでも実施し、47名の参加がありました。

講演会では、東京海上日動リスクコンサルティング株式会社サイバーセキュリティラボ上席主任研究員の池上雄一郎氏を講師に迎え、「個人情報漏えいの影響及び被害から考えるリスク低減のポイント」

と題して、情報セキュリティインシデントの事例等を交えて講演して頂きました。

出席者は、コロナ禍で増加しているリモートワークやオンライン会議など、情報通信サービスの変化によって重要性が高まっている今後の情報セキュリティのあり方について、熱心に聞き入っていました。

本学では、引き続き情報基盤の整備を実施するとともに、情報漏えいが発生しないよう、教職員及び学生への意識啓発に努め、情報セキュリティ対策に一層積極的に取り組んで参ります。

オンライン授業における著作権の取り扱いに係る講演会開催

総合学術情報センター（ICT支援部門）では、令和3年3月19日（金）にオンライン授業における著作権の取り扱いに係る講演会を開催し、教職員61名に参加頂きました。本講演会は新型コロナウイルス影響下のため、オンライン（Zoom）により実施されました。

講師には、本学知的財産権アドバイザーで弁理士の丸山修氏をお招きし、「オンライン授業と著作権について」と題して、オンライン授業実施時における資料の取り扱いに留意すべき著作権について、関

連法規である学校その他の教育機関における複製等を定める著作権法35条の内容を中心に、平成30年に改正された教育における著作権の制限規定の変更内容等について講演して頂きました。また、事前に参加者から募った質問に対しても個別に回答して頂きました。

今後もオンライン授業やeラーニングにおけるサポートを通じて、授業や自学自習における学修支援を行うとともに、著作権の啓発活動にも取り組んでいきます。



献血ご協力ありがとうございました

令和3年2月25日（木）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力頂きました。

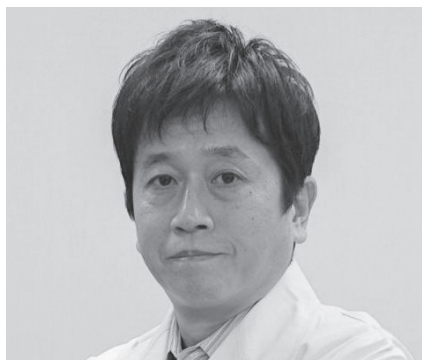
せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いします。

次回は令和3年6月頃に予定していますので、ご協力よろしく申し上げます。

冬の団体献血（結果）

・ 献血受付数	・ 33名
・ 献血できた方	・ 26名 (400ml・25名)
・ 献血できなかった方	・ 7名

教授就任インタビュー



内科学講座（糖尿病内科）・教授

かみや ひでき
神谷 英紀

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

この4月から内科学講座（糖尿病内科）の教授を拜命致しました。どうぞよろしくお願い致します。私は、平成23年に愛知医科大学病院に糖尿病センターが新設されたことを期に、同年7月に着任させて頂きました。先代教授である中村二郎先生（現在：本学医学部先進糖尿病治療学寄附講座・教授）のご指導の下、10年の間で、私は愛知医科大学から教育・診療及び研究について多くのことを学ばせて頂き感謝しております。

私の専門は糖尿病学になりますが、皆さんご存知の通り世界的に、また我が国においても糖尿病患者数は増加の一途をたどっております。糖尿病を患うと生活の質が著しく低下するため、まずは糖尿病にならないこと（予防）、また、なってしまった場合は糖尿病性合併症を発症させない・進展させないことが重要になります。そのためには、適切に丁寧に糖尿病患者さんの治療を行う必要があります、それを担う糖尿病専門医及びメディカルスタッフの育成に努めていきたいと思っております。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

私が糖尿病学に進んだのは、親族に糖尿病が多かったことに加えて、私の恩師である堀田饒先生（現在：中部ろうさい病院・名誉院長）と先代の中村教授との出会いが大きかったと思います。私は海南病院で研修し、そこでは腎臓内科の魅力的な2人の上司に強く惹かれ、大きく揺らいだ時期もありましたが、最終的には糖尿病を選択し、今に至っております。人との出会いが決め手といえます。

研究においては、糖尿病性合併症、中でも糖尿病性神経障害を専門にしております。糖尿病性神経障害の分野は、基礎研究においても臨床においてもまだまだ解決しないといけない多くの課題を有しており、一つひとつ取り組んでいきたいと考えております。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

皆さんが将来医師になるに当たり、もちろんしっかり勉強し、まずは国家試験に合格することが重要であることは言うまでもありません。ただ、同時にしっかり学生時代を楽しんでください。部活・アルバイト・旅行など、何でも良いと思いますが、人生で二度とない学生時代という貴重な時間を大事に過ごしてください。また、将来、高度な診療ができる医師になる、立派な研究者になるといったことも重要ですが、その前に人の話にしっかり耳を傾けることができ、人に頭を下げることのできる医師あるいは研究者になってください。頑張ってください。



基礎看護学・教授

やまなか
山中

まこと
真

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

私は、2018年に准教授として就任し、2021年4月1日付けで、基礎看護学領域の教授を拝命致しました。

2018年度の就任後より、看護管理学分野に関する教育を実践しております。看護管理学とは、組織資源である「ヒト・モノ・カネ」の三つを効率的に運用し、組織利益に繋げることを目的とした視点と、資源を確保し育てることを目的とした二つの視点が重要な学問です。この中でも、資源を確保し育てる視点として看護専門職者の実践技術の評価と評価に基づく新しい教育方法の提案を専門として教育・研究活動を行ってきました。

医療分野において、ヒトの資源は最も重要であり、その中でも看護師は幅広い活躍が求められる職業です。看護師の持つ実践技術が正しく評価され、評価に基づく教育が実践されることは、医療業務のタスクシフトが求められる我が国において、看護師の役割拡大を広げていく上で重要になると考えます。基礎看護領域では、愛知医科大学病院の次世代を担う学生に対して看護実践技術を分かりやすく教育することに努めるとともに、看護技術の奥深さを学ぶことで、一人でも多くの学生が自信をもって卒業できるように取り組んでいきたいと思っております。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

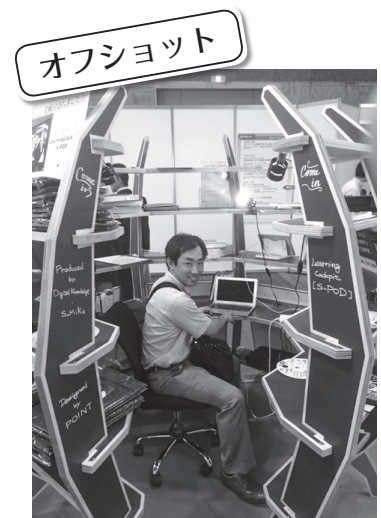
研究員として働いていた中で、測定機材を用いて人の動作や侵襲の程度を計測し、可視化する手法について学ぶ機会を得ることができました。それまで、質問紙などでの評価手法しか知らなかった私にとっ

て測定値として可視化することは衝撃的な体験でした。その後、大学院教育に携わる中で、多くの看護師には理解されないけれど、同じ専門看護師ではドップラー音で血管の病状がある程度把握できるという共通理解があると当時の学生から聞いた時、言葉にできない熟練者の技術を測定機器にて数値化することに興味を抱いたことが、現在取り組んでいる研究のきっかけです。熟練者の多くが高度実践技術になるほど感覚的な表現を用いて説明することが多く、彼らの感覚が実際に違いとして可視化できないかと思い、音の解析とその音の捉え方について調査を行いました。その結果、病気の有無により音の違いが生じる部分があり、その点を聞き分けている可能性を示唆しました。熟練者の持つ技術の根幹を証明することは、彼らの言葉にできない「凄み」を証明することであり、看護職専門職としての価値を示すことに繋がると考えています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

看護職としての臨床経験は6年間と短い期間でしたが、多くの病院・施設の看護師として大学院と並行して働くことで、看護領域の職業としての幅広さと応用性について知ることができました。看護職は、病院・施設だけでなく企業においても働くことができる職業です。

私は、看護師になりたいと思って看護職を選んだ者ではありません。学生の皆さまの中にも同じような方がいらっしゃるかもしれません。学生の皆さまが考えている以上に、看護の世界は広く、今後ますます拡大していく領域です。看護という学問の入り口に立った学生の皆さまが、知らないからこそ持つ柔軟性を生かして、この分野を発展させていけるよう、お手伝いできればと思います。この道を目指して良かったと思える4年間を過ごせるように、お互い頑張ってください。



ICTイノベーションフォーラム2019

新入生ガイダンス実施

令和3年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部は4月5日（月）～8日（木）、看護学部は4月5日（月）～7日（水）に実施されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、学生を班分けして登校時間をずらしたり、オンライン講演を取り入れるなどの対策を講じて実施されました。

◆ 医学部ガイダンス概要

4月5日（月）
学生生活について
学生相談室の紹介
国際交流に関する説明
医学部のカリキュラムについて
・6年間のカリキュラムについて
・1学年次のカリキュラムについて
・履修上の注意および試験に関する注意
・単位認定・進級留年および成績評価（GPA制度）
実習衣採寸・注文
授業，試験等について

4月6日（火）
基礎科学ガイダンス
ICTに関するガイダンス
ハラスメント防止講演会【オンライン】
防犯講習会
医学部長メッセージ
課外活動紹介

4月7日（水）・4月8日（木）
新入生研修



真剣な眼差しで聞き入る学生

◆ 看護学部ガイダンス概要

4月5日（月）
教務関係オリエンテーションⅠ～Ⅳ
総合学術情報センター（情報基盤部門）利用講習会
学務情報システム説明

4月6日（火）
ハラスメント防止講演会【オンライン】
防犯講習会
教科書販売

4月7日（水）
学生生活関係オリエンテーション
学生相談室紹介
新入生研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの概要説明
アドバイザー紹介
施設紹介（運動療育センター、愛知医大サービス）
傷害・賠償保険等の説明
事務手続き及び連絡等奨学金の書類提出
ロッカー案内など



教員による内容説明

令和3年度医学部新入生研修実施



講演の様子

令和3年4月7日（水）・8日（木）に、令和3年度医学部新入生を対象とした、新入生研修が実施されました。

令和元年度までは、プロフェッショナリズム1aの授業の一部として実施されていましたが、新入生研修は、医学生としての心構えのみならず、大学生としてのコミュニケーション能力の醸成などを目的としているため、令和2年度から大学行事として実施されることとなりました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら中止となったため、1学年次生は、十分に同級生同士のコミュニケーションをとる機会がないまま、オンライン授業が始まり、学生生活に与えた影響は大きいものでありました。そこで今年度は、形式を変更してでも対面で実施した方が良いと判断し、1日のプログラムで学生を2班に分ける方法で2日間実施されました。

研修では、伊藤恭彦教務部長、早稲田勝久医学教育センター長から、医学部入学後に目指すこと、カリキュラムの意味などの説明があった後、医学教育センターの青木瑠里講師から「医学生って何者？」と題した講演が行われました。続いて、「基礎医学の学び方」と題し、1日目は、笠井謙次教授（病理学講座）及び佐藤元彦教授（生理学講座）、2日目は、高村祥子教授（感染・免疫学講座）及び内藤宗和教

授（解剖学講座）による講演があり、心理学の宮本淳准教授からは、コミュニケーションの基本となる演習が行われました。

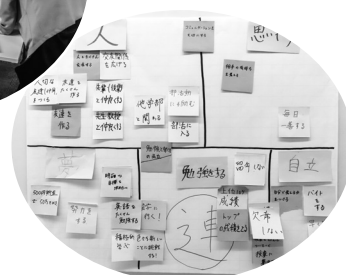
また、2学年次生（阪上あすかさん、杉山英里さん、田中透さん、坂野太紀さん）、3学年次生（岩田裕真さん、對馬由奈さん、西村彩花さん、徳永宏至さん）から大学生活に関する体験談の話があり、「先輩医師からのメッセージ」と題し、杉山佳代講師（外科学講座（心臓外科））から学生生活を送る上でのアドバイスを含めた講演がありました。

学生は、講義ごとに、グループディスカッションを繰り返し、コミュニケーションを深めながら、自分たちの考えをまとめていきました。それを活かして最後に、「今後の6年間の過ごし方」についてKJ法を用いたグループワークが行われ、各グループに6年間の過ごし方を漢字一文字で表してもらいました。1日目は、「実・花・夢・道・蜜・豊・連・昇」、2日目は、「実・努・学・翔・生・繋・輝」という一文字となり、それぞれのグループの一文字の意味をかみしめ、今後活かしてくれることを期待しています。

また、終了後のアンケートには、多くの同級生と知り合い、ディスカッションできたことへの喜び、医学部に入学した自覚の芽生え、医師を目指すことへの実感などについて記載があり、新入生研修の目的は達成されたものと思われる。



活発なグループワーク



令和3年度看護学部新入生研修実施

看護学部では、令和3年4月7日（水）・8日（木）の2日間において「社会に求められる看護専門職者に向けて、はじめの1歩を踏み出そう」をテーマに、専門職者としてのふるまいやマナーを知り、看護学部で主体的に学ぶことへの動機付けができるようになることを目的に新入生研修を実施しました。

初日は、学生委員会の佐々木裕子委員長から、災害・防災対策についての説明を受け、続いて、新入生全員で安否確認システムへの登録を行い、学生委員会委員から、在学中の実習を行うにあたって必要不可欠となる「感染症と健康管理」及び「健康管理手帳の記入方法」等について学びました。

2日目の午前は、少人数グループで大学構内を見学するキャンパスツアーを開催し、学内施設を巡り、チェックポイントでの「〇×クイズ」にグループで協力し、回答していく中で、初めは緊張した様子でしたが、時間が経つにつれ、笑い声も聞かれ、親睦を深めることができているようでした。

午後からは、事前に録画をした2～4学年次生9名からのリレーメッセージをオンライン視聴し、先



キャンパスツアーの様子

輩の体験談や思いを真剣に聞き入っていました。続いて、株式会社マイナビの友松里枝氏による「大学生として身につける接遇・マナー」と題した講演が行われました。

最後に、振り返りとして、看護学部生として明日から始めること、心がけることについて、個人レポートをまとめました。

本研修は、新入生にとって、これからの学生生活を送る上で、非常に有意義な2日間になったことと思われま

篤志献体者に文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体頂いた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。

なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

伊藤 文子 殿

大森 康德 殿

奥村 芳野 殿

尾島多恵子 殿

加藤 守康 殿

神波タカコ 殿

木村 建一 殿

熊崎 勝重 殿

久茂田光子 殿

小島 鎭一 殿

近藤 末松 殿

佐藤 隆三 殿

澤田 政子 殿

竹岡 ウシ 殿

西村 孝志 殿

光浪 輝義 殿

薬袋 晃 殿

山田 秀孝 殿

横地 末夫 殿

吉田 和子 殿

吉田 桂子 殿

(以上 五十音順)

ハラスメント防止講演会・防犯講習会開催

令和3年4月6日（火）午後1時20分から医学部及び看護学部の新入生 220名を対象に、ハラスメント防止講演会、防犯講習会が開催されました。新型コロナウイルス感染予防策として、医学部生は大学本館たちばなホールで、看護学部生はC棟201講義室で受講しました。

ハラスメント防止講演会は、21世紀職業財団の清水智子講師にオンラインで登壇して頂き、大学におけるハラスメントの基礎知識や難しさ、被害にあっている時の対処方法などについて具体例を交えながら説明して頂きました。

続いて、愛知警察署から生活安全課生活安全第1係巡査長立松氏を始め4名の方を講師に迎え、防犯講習会が開催されました。防犯講和、薬物講話、宗教注意喚起をテーマに講演して頂き、気づかない

講演する立松巡査長



講演会の様子

ちに巻き込まれがちな犯罪や、近年大学生に広まり逮捕が相次ぐ「大麻」の危険性、コロナ禍に乗じて若者の勧誘が問題視されているカルト宗教について注意喚起がありました。

この講演会で得た知識を活用して、安心安全な大学生活を送ってくれることを期待します。

春の交通安全講習会開催

令和3年4月14日（水）午後5時40分から医学部・看護学部の学生を対象に、「春の交通安全講習会」をオンラインで開催され、両学部併せて220名が参加しました。

講師をお願いした愛知署交通課交通総務係大坪警部補から、愛知署管内で最近起きた交通死亡事故について紹介があり、交通死亡事故が他人事ではなく身近に起きていることが伝えられました。また、道路交通法の一部改正により、運転中のスマホ等利用に対する罰則強化の内容が伝えられた後、「ながらスマホ」により尊い命が奪われた事故の被害者の声についてDVDを視聴しました。【写真】

講習終了後には、交通安全に対するWebテストを全25問実施し、「ヘッドライトは、ハイビーム（上

改正前	改正後
運転中のスマホ等を使用 罰則 5万円以下の罰金 反則金 大型…7千円 普通…6千円 二輪…5千円 原付…5千円 点数 1点	改正後 罰則 4月以下の懲役又は10万円以下の罰金 反則金 大型…2万5千円 普通…1万8千円 二輪…1万5千円 原付…1万2千円 点数 3点
さらに事故を起こした 罰則 3月以下の懲役又は5万円以下の罰金 反則金 大型…1万2千円 普通…9千円 二輪…7千円 原付…6千円 点数 2点	改正後 罰則 1年以下の懲役又は30万円以下の罰金 反則なし （反則金制度の対象外となり、すべて罰則の対象に） 点数 6点（免許停止）

向き)を基本に走行するのがよい」や「横断歩道を横断しようとしている歩行者があるときは、その横断歩道の手前で一時停止して、その通行を妨げないようにする」等の交通規則の確認を行いました。

今後も学生一人ひとりが安全運転に努めてくれるよう、引き続き啓発活動を続けて参ります。

令和2年度実験動物慰霊祭挙行

令和2年度医学部実験動物慰霊祭が、令和3年3月8日（月）午後0時30分から実験動物供養塔前において厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し、参加者全員で黙祷が捧げられました。続いて、祖父江元 学長、若槻明彦医学部長、佐藤元彦総合医学研究機構長、松下夏樹動物実験部門長から代表献花が行われ、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意を表し、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。【写真】

その後、コロナ禍における密を避けるために設け



られた自由参列時間において、日頃動物実験や飼育に携わっている教職員一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

令和2年度医学部学生の表彰

令和2年度に他の模範となる活躍をした医学部学生の表彰が行われ、6学年次生2名、5学年次生1名に対し、祖父江元 学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

平田智基さん（6学年次）、花林卓哉さん（6学年次）の2名は、外国語の山森孝彦教授を始めとする本学教員との共著による英文論文『Assessment of Evidence-Based Medicine education in the Japanese New Model Core Curriculum using a student-to-student multi-institutional survey』が医学英語教育学会の学会誌 Journal of Medical English Educationにアクセプトされ掲載されました。

また、恒川礼奈さん（5学年次）は、解剖学講座の中野隆教授を始めとする同講座教員との共著による case report 『A rare third head of the biceps femoris in the posterior thigh』が Anatomical Science Internationalにアクセプトされ掲載されました。

今回のように表彰される学生が今後も続くことを期待します。



祖父江学長、若槻医学部長等と記念撮影
(中央左側：花林さん、中央右側：平田さん)



祖父江学長から恒川さんへ記念品の贈呈

令和2年度医学部第3回FD開催

令和3年3月25日（木）に医学部第3回FDが開催されました。今回もCOVID-19禍のため、オンラインによるFDとなりました。

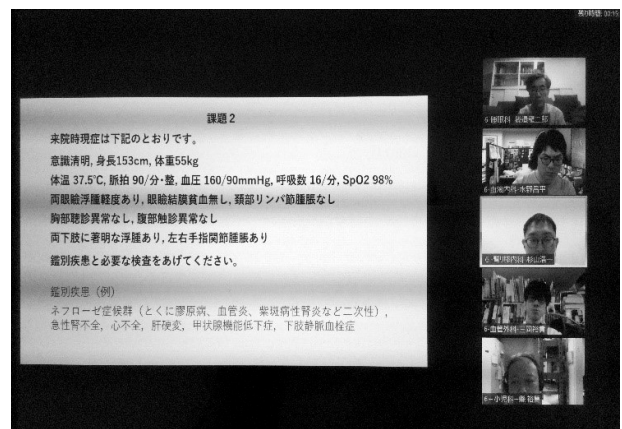
今回のFDは、各科で実施している科別OSCEのシナリオのブラッシュアップを目的としました。現在、クリニカル・クラークシップBにおいて、各科で科別OSCEを行って頂き、学生のレベルアップを図っています。

早期から科別OSCEを行っている内科学講座（肝胆膵内科）の伊藤清顕教授（特任）、小児科学講座の縣裕篤教授（特任）にOSCEの内容・工夫点を紹介して頂いた後に、グループディスカッションに移行しました。

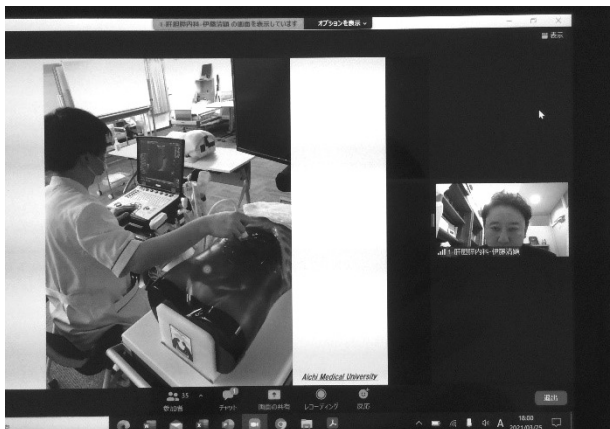
グループ内で、それぞれの各科OSCEシナリオを紹介し合い、ブラッシュアップが行われます。グループは、参加頂いた「科別OSCEを担当している・担



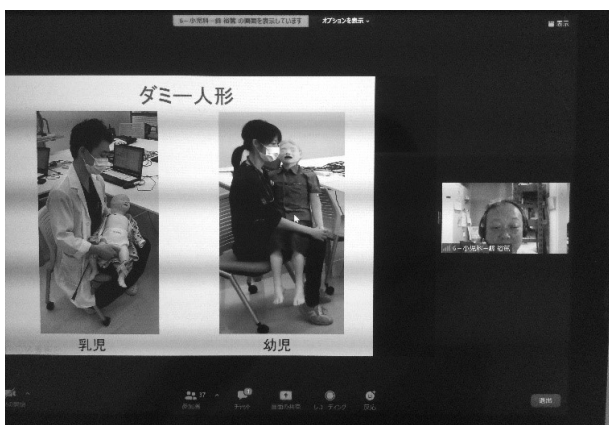
教務関係役職者等のホスト側



課題解決に向けたディスカッション



伊藤教授（特任）のプレゼン



縣教授（特任）のプレゼン

当したことがある」先生と、「担当したことがない」先生とを合わせて作成しました。「科別OSCEを担当している・担当したことがある」先生は、自身の診療科で実施している科別OSCEのシナリオ・評価表などを紹介・共有し、ブラッシュアップをグループディスカッションで行いました。

最終の全体ディスカッションでは、学生同士の屋根瓦式教育を念頭に置いたOSCEの大切さ、エコーなどの医療機器説明・実施の大切さに気がつくこと、更にその医療機器を使用して得た情報を診察に繋げる大切さを、いかに学生に気付かせることが大切だという意見に集約されました。今後の更なるOSCEのブラッシュアップを継続し、学生に良い教育を提供できるよう尽力していきます。お忙しい中皆さまの参加に感謝申し上げます。

看護学部体験入学開催

令和3年3月22日(月)看護学部実習室において、看護学部体験入学が開催されました。

高校生を対象として、看護学部における講義の実際を体験することで、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めて頂くことを目的として開催しています。

当日は、25名の高校生が参加し、体験授業(スマホ首は笑えない)では、緊張する中で皆真剣に聞き入っていました。

体験演習(スマホ首を予防するためのセルフマネジメント)では、習慣動作・習慣姿勢の見直し、硬くなった筋肉と関節を柔軟にすること、弱まった首の筋肉の活性化を目的に、ダンスを取り入れた体操を参加者全員で行いました。また、スマホ首を予防するため、この体操を習慣化するにはどうすれば良いかをテーマとしたグループワークを行い、活発な意見交換が行われました。その後、ドクターヘリやドクターカーを見学しました。



ダンスを取り入れた体操の様子

参加した高校生からは、「楽しみながら体験ができて、とっても楽しかったです。」「みんなで話し合ったりしたのは楽しかったし、違う意見が聞けてよかった。また、体を動かすのがすごく楽しかったです。」「ドクターヘリやドクターカーをあんなに近くで見たのは初めてなのでとても興奮しました。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、とても有意義で充実した体験となったことと思います。

看護実践研究センター「看護研究支援セミナー」開催

令和3年1月30日(土)及び2月7日(日)に看護学部臨床実践看護学の阿部恵子教授による「看護研究支援セミナー ～研究を身近に！現場の課題解決に向けて～」が、オンラインの2回シリーズで開催されました。【写真】

第1回は、「研究疑問がわかる」のテーマで、看護研究とは何か、研究と実践の関係、研究疑問を引き出すプロセスについて講義と動画を活用した演習で学びました。第2回は、「研究テーマが絞り込める」とし、少人数グループでのディスカッションを通して各自の研究テーマの絞り込みを進めました。最後の研究デザインについての講義では、グループワークで絞り込んだ自分の研究テーマに対する研究方法について考える機会になりました。

参加者からは、「初心者で不安があったがわかりやすかった。」「動画を使用しての演習は考えやすかった。」「小グループでディスカッションしやすかった。」「ファシリテータからのフィードバック



や助言がありよかった。」など好評で、「自分の考えを言語化することで考えが明確になった。」「自分のテーマを絞ることができた。」など、成果や充実感を感じられる意見も寄せられ、盛況のうちに終了しました。

看護学研究科特別講義

令和3年2月13日（土）午後1時30分から、大阪大学人間科学研究科の村上靖彦教授をお招きし、「看護と〈居る〉を支える ～現象学でほどいていく看護師の語り～」というテーマで、オンラインによる大学院特別講義が開催されました。

村上先生は現象学的な質的研究をご専門とされ、これまで看護師へのインタビューをもとに『搞便とお花見』、『在宅無限大：訪問看護師がみた生と死』、『現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー』など多数の現象学的著作を出版されています。

講義では、現在分析中の語りも織り交ぜながら、

〈居る〉を支えるということの諸相について、ケアが生み出す側面、身体が存在がかかわる側面、社会が生み出す側面などをお話しくださいました。

今回の講義には184名の参加があり、看護だけでなく他の専門領域からの参加もありました。参加者からは、「現象学に基づいたわかりやすい講義の中で改めてケアの意味を考えることができました。」「人が人としてその存在を認められることの重要性を改めて理解致しました。」等の感想が寄せられました。

看護学研究科特定行為研修修了証授与式挙行

令和3年3月6日（土）午前9時から役員会議室1において、令和2年度特定行為研修修了証授与式が挙行されました。【写真】

式では、看護学研究科高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース修了者一人ひとりに対し、祖父江元理事長から修了証書が授与されました。

続いて、祖父江理事長から「特定行為研修修了者はこれからの医療を担っていく可能性が大いにあります。皆さまの益々のご活躍を期待しています。」との祝辞が述べられ式は終了しました。

*高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース修

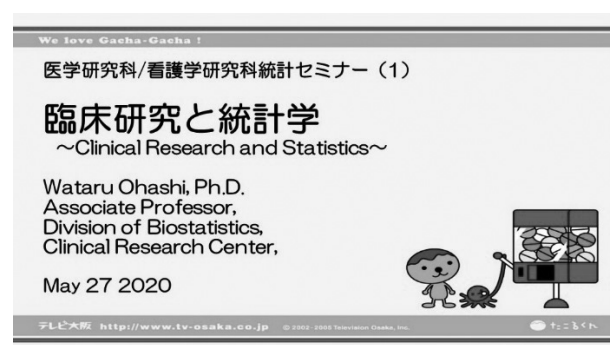


了後は、特定行為研修修了者として厚生労働省に報告します（38行為21区分）。また、一般社団法人日本NP教育大学院協議会が実施する「NP資格認定試験」の受験資格が得られます。

令和2年度医学研究科・看護学研究科統計セミナー開催

医学研究科及び看護学研究科の合同により、令和2年度は、計10回の統計セミナーが開催されました。

本セミナーは、臨床研究支援センターの大橋渉准教授を講師とし、医学研究科及び看護学研究科学生を中心に、病院職員を含めた全教職員を対象として、オンラインにより開催されました。研究における統計学的分析手法の基礎知識を習得する講義・演習となっており、参加者からは、「具体例が多く示してあり、理解しやすかったです。」「シリーズで複数回受講することで、少しずつ理解が深まります。」「身近な例でわかりやすく、楽しく受講できます。」などの感想がありました。



医学研究科及び看護学研究科では、今後も研究力の向上を図っていきます。令和3年度も開催予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております。令和2年度の開催日及びテーマは、次のとおりです。

No	日時	テーマ
1	5月27日（水）18時～19時	統計学の基礎
2	6月24日（水）18時～19時	統計的検定の基礎
3	7月31日（金）18時～19時	医学研究と統計的検定
4	8月24日（月）18時～19時	回帰と相関
5	9月30日（水）18時～19時	後ろ向き研究の手順
6	10月21日（水）18時～19時	ロジスティック回帰分析
7	12月8日（火）18時～19時	生存時間解析（1）
8	12月22日（火）18時～19時	ロジスティック回帰分析
9	1月25日（月）18時～19時	生存時間解析（2）
10	2月22日（月）18時～19時	実例に見る数字と研究

定年退職教授最終講義

今年3月で定年を迎えられた3名の教授の最終講義が大学本館たちばなホールにおいて行われました。

長年にわたり本学の発展に多大なる貢献をして頂き、また、本学の医学教育に対しご尽力くださいました先生方の最終講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介致します。

外科学講座（呼吸器外科）

羽生田正行 教授 2月12日（金）

【「人の世に道は一つということはない」

—愛知医科大学と歩んだ18年が教えてくれたこと—

羽生田正行教授は、平成15年4月、本院に創設された外科学講座（呼吸器外科）の初代教授としてご着任して以来、18年の長きにわたり教授・診療科部長を務められ、医学部学生及び研究医の教育、呼吸器外科学の技術的な進歩や縦隔腫瘍の治療、更に後進の育成、本学の外科学講座（呼吸器外科）の発展に、大変な熱意を持って当たってこられました。

本院においては、平成23年から副院長、平成26年から病院長代行、そして平成27年から病院長として新病院の運営に携わり順調に稼働させ、大きな功績を上げられました。大学においても、平成25年から評議員、平成26年から理事、平成27年から常任理事、平成28年から副学長として、多大なる発展に寄与されました。

最終講義では、本学に赴任された当時のエピソードを交え、ある内科教授に「愛知医大の教授は玉石混淆だけど、石が多いな」という厳しい言葉と、先生自身が医学部を卒業時には、臨床は大好きだけど、面倒くさいことは嫌いな医師（石）であったなということをお思い出されたこと。また、ダイヤモンドの原石は、それ自体ではダイヤモンドにはなれないが、誰かに削ってもらい、磨いてもらってダイヤモンド



として活躍できるようになる。自分の特徴というのは、自身では分からないものであるが、欠けた断面や磨かれた表面から、自分が意図しなかった一面が現れ、その意図しない部分で世の中のお役に立てる道ができることを、先生のこれまでの研究やご経験等、多くの写真や資料・データを用いて詳しく講義してくださいました。また、講義では、愛知医科大学という器の中で、擦れあい、ぶつかり合うことで、新しい文様や割れた断面を見つけて頂きたい。自分の進む道は、割れた断面や擦れた表面の数だけあると考えています。人の世に道は一つということはない、是非、自分の道を見つけて頑張ってください。」とエールを送られました。

最後に、2021年4月からは、愛知医科大学メディカルセンターの初代院長として就任されますが、今まで関わってこられた多くの方への感謝の意を表され、講義を終えられました。

救命救急科

武山直志 教授 2月19日（金）

【救急医学の歴史と歩んだ40年】

武山直志教授は、平成17年4月に本学にご着任以来、救急、集中治療分野の臨床指導に加え、医学部学生、研修医に対する教育、大学院生の研究指導を中心に、大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。

また、日本内科学会、日本救急医学会、日本熱傷学会指導医・専門医として活躍されたほか、多くの学会で評議員も務めてこられました。

一方で、平成27年10月から本院高度救命救急センター長、平成28年7月からは、副院長を務められ、救急医療を中心に地域医療の充実、発展に尽力されました。

最終講義では、地球温暖化のお話に始まり、日本における救急医療の歴史、大学にできた新しい部署である救命救急センターに魅力を感じ入局されたこと、学内で認めてもらうためには、臨床・研究・教育の全ての実績が必要であったが、そのどれも実績がなく、ゼロからのスタートで大変ご苦労されたこ



と、続いて、長年にわたって研究されてこられたアポトーシスやミトコンドリア膜透過性亢進、侵襲制御や炎症制御の研究について紹介されました。他にも、COVID-19の病態や最近の考え方について、多くの資料・データや写真を提示して詳しく講義をしてくださいました。これは、先生が積み上げてこられた業績を伺い知ることができる興味深いものでした。

2021年4月からは、特命教授として高度救命救急センターの診療部長として在職されますが、講義の最後に、今まで関わってこられた多くの皆さまへの感謝の意を表され、講義を締めくくられました。

内科学講座（糖尿病内科）

中村二郎 教授 3月2日（火）

【糖尿病性合併症：

その深遠なる課題とともに歩んだ40年】

中村二郎教授は、平成23年5月にご着任依頼、診療、医学部学生及び研修医の教育、臨床研究の指導を中心に、大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。また、教授として、本院糖尿病診療を牽引するとともに、講座人員の充実にも注力され、全国屈指の内科学講座（糖尿病内科）を築き上げ、本学の発展に多大なる貢献をされました。

一方、平成30年4月から平成31年3月まで本院副院長並びに医療連携センター長を務められ、本院と地域医療機関との連携強化にご尽力されました。

最終講義では、先生が糖尿病を専門とする決断をするに至った恩師との出会いの話に始まり、長年にわたって従事された、糖尿病性合併症、糖尿病性神経障害の成因解明と治療法の確立に関する基礎的及び臨床的研究を始め、糖尿病臨床全般に関する様々な研究内容について、数多くのデータや写真を使って、講義してくださいました。これは、糖尿病医として歩んでこられた40年間で、本学及び内科学講座（糖尿病内科）の発展に大きく貢献された業績を伺



い知ることができる興味深いものでした。

また、これまでの基礎研究の実績として、糖尿病性神経障害に対する再生医療の研究が紹介され、我が国のみならず世界的にも、神経障害の研究者が少なくなっている中で、先生は、神経障害にこだわって研究を続けていきたいと考えておられること、今後は、「糖尿病患者が食べたいものを食べ、飲みたいものを飲み、歌い踊れるようになる。」という糖尿病学の夢の実現に向けて、これからも進み続けたいと決意を新たにされていました。

2021年4月からは、先進糖尿病治療学寄附講座の教授として引き続き本学に在職されますが、講義の最後に、これまで関わりのあった方々への感謝の言葉をもって講義を締めくくられました。

—退職を迎えて— “長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力頂ける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待致します。



中村 二郎 先生
(内科学講座 (糖尿病内科)
・教授)

定年退職のごあいさつ

令和3年3月末をもちまして退職致します。平成23年5月、新設されました糖尿病センターの教授としてたった一人で着任してからの約10年間、糖尿病の診療・研究・教育に充実した時間を過ごさせて頂きました。国内屈指の糖尿病内科教室へと発展させることができたと思っておりますが、これも偏に学内の皆さまのご支援があったからこそであり、心



羽生田 正行 先生
(外科学講座 (呼吸器外科)
・教授)

新しい自分を見つけ磨くための愛知医科大学にしよう

愛知医科大学に奉職して18年になります。「18年間もよく教授として使ってもらったな。」という思いであり、本学には本当に感謝しています。教授になって「たくさん手術ができるぞ。」と喜んだのを覚えています。しかし、現実はそのように甘くはなく、18年経ってようやく愛知県4大学の一角に食い込む程度にしかできなかったことは反省しています。今後、後輩の活躍で更に発展させて頂けることを期待

より御礼を申し上げます。

また、愛知医科大学全体への貢献という点では、十分なことはできませんでしたが、セーフティマネージャー会議議長、インシデント専門委員会委員長及び医療連携センター長を務めさせて頂き、これまであまり関心のなかった領域を担当させて頂いたことは、貴重な経験となりました。

4月以降は、「先進糖尿病治療学寄附講座」を開講させて頂き、あとしばらく本学に籍を置かせて頂きますので、愛知医科大学の発展に微力ながら貢献できればと考えております。今後とも、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

しております。

一方、本学での臨床以外の仕事は色々なことが経験できたと思っています。初めての病院機能評価、医療安全管理のインシデント専門委員長、新病院建設副委員長、病院経営企画室長、病院長、経営戦略推進室副室長、副学長と挙げればきりがありませんが、いずれも自分の新しい一面を見つける良い機会だったと思っています。

大学・病院の仕事は大変な面もありますが、余計な仕事と思わずに、是非、自分の新しい面を見つけ磨く機会だと考えて、積極的に活用して頂けることを願っています。

これからの愛知医科大学の躍進を願っています。長い間ありがとうございました。



武山 直志 先生
(救命救急科・教授)

退任のごあいさつ

令和3年3月末をもちまして愛知科大学を退任することになりました。本学に初めて赴任したのは平成17年4月で、野口宏教授のもと、平成22年3月まで助教授を務めさせて頂きました。その後一時期、他学に異動し、平成27年7月、再び愛知医科大学に赴任し、合計10年余り奉職させて頂きました。その間、関連診療科の多くの先生方のご協力を得て、また有能な医局員にも恵まれ、本院における救急体制

の充実及び高度医療を確立させることができました。また、高度救命救急センター長、尾張東部メディカルコントロール会長として長久手地域における救急医療の発展を進めることができました。

昨年来、世界中を震撼させ、私共の生活を一変させている、新型コロナウイルス感染症パンデミックに対し、地域における救急医療の最後の砦としての高度救命救急センターの役割を果たすために、病院・大学職員が一丸となり対処して頂いていることに改めて御礼を申し上げます。

本学のこれまでのご支援に深く感謝をするとともに、更なる発展を祈念致します。



岩瀬 敏 さん
(生理学講座・教授 (特任))

毎日の教育、研究、診療に従事しているうちに、定年を迎えることになりました。愛知医大での16年間は、あっという間に過ぎました。スタッフの皆さまのご助力に深謝致します。どうもありがとうございました。



浅井 久弘 さん
(病院事務部・主事 (再任用))

42年間の長きにわたり勤務を続けられたのは、多くの皆さまの支えがあったからであり、心より感謝申し上げます。今後、愛知医科大学の更なる発展を祈念致します。



栗津 典子 さん
(看護部・看護補助員)

27年間色々ありましたが、良きスタッフに恵まれ無事定年を迎えることができました。皆さまに感謝致します。4月からは再雇用で働きますので、よろしくお願い致します。ありがとうございました。



神原 和代 さん
(看護部・副部長)

愛知医科大学病院に就職し、40年間働かせて頂き無事定年を迎えることができました。これも一重に皆さまのご支援あってのものとお心から感謝致します。本当にありがとうございました。今後の愛知医科大学の更なる発展をお祈り申し上げます。



近藤 直也 さん
(医療情報管理課・主事(再任用))

多くの方に支えられ、家内の手弁当に支えられ再雇用期間を含め42年間勤めることができました。ありがとうございました。愛知医科大学の更なる発展を祈念しております。



中條 孝弘 さん
(医事管理部・部長)

多くの方から長年ご指導・ご支援を頂き、無事定年を迎えることができました。また、再雇用として勤めることとなり嬉しく思っております。皆さまに心より感謝、御礼申し上げます。



中山 里美 さん
(看護部・看護師)

良き職場とスタッフに恵まれ、36年間勤めて無事定年を迎え、また、再雇用で働けることとなりました。皆さまに感謝し御礼申し上げます。

(五十音順、希望者のみ掲載)

医療従事者向け新型コロナウイルスワクチン接種開始

本院では、令和3年3月12日（金）から、医心館1階を会場として、医療従事者向け新型コロナウイルスワクチン接種が開始されました。

ワクチン接種を開始するにあたり、接種会場の選定、接種会場内の感染防止対策、円滑な接種体制構築及びアナフィラキシー症状発生時の対応体制等について、事前に関係部署及び多職種が複数回協議を重ね実施方法を決定しました。また、基本型接種施設として国から超低温フリーザー、新型コロナウイルスワクチン及び関連消耗品の供給を受けてワクチン接種を実施しています。

今回のワクチン接種にあたっては、事前のワクチン調製から始まり、会場での受付、問診、ワクチン接種、経過観察と医師、看護師、薬剤師及び事務職



受付の様子

員の連携が必要不可欠な事業であり、院内の多職種連携・協力の下、順調に接種が進められています。

医療従事者のワクチン接種を完了させ、一般市民の皆さまに安心・安全な医療の提供に努めて参ります。

新規採用医師ガイダンス開催

新規採用医師ガイダンスが、令和3年4月1日（木）に新規採用医師、帰局医師及び新規採用臨床研修医（計99名）を対象に開催されました。今年度のガイダンスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、会場を二会場とし、講義内容は事前に撮影した映像を視聴する形式としました。

このガイダンスは、平成22年度から医療安全を始めとする主な院内ルールの周知徹底を目的に開催しており、道勇学病院長から「病院の概要及び経営方針」の説明や新規採用医師に対するメッセージがあ

り、各部門の責任者から院内主要部署の業務内容、救急医療体制、医療安全管理、感染予防対策、プライマリケアセンターの役割についてのガイダンスが行われました。ガイダンスの内容は、日常の診療に直ちに反映されるものばかりであり、参加した医師は真剣な表情で受講していました。

今後、年度途中に採用された医師については、今回と同様に映像視聴により、ガイダンスに充てることとしています。

臨床研修医ガイダンス開催

令和3年4月1日（木）～8日（木）まで、新規採用研修医29名及び研修歯科医3名を対象に、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての「臨床研修医ガイダンス」が開催されました。

ガイダンスは、中野正吾卒後臨床研修センター長、専任教員・高橋美裕希副センター長から、医師としての心構え等についての講話から始まりました。

続いて、電子カルテの操作方法講習やBLS（一次救命処置）講習において、質問への応対や助言、手助けなど、常に先輩の医師が後輩の医師に対応する、いわゆる「屋根瓦方式」の研修が行われました。

このガイダンスの内容は、臨床研修医にとって将来必ず役立つものと期待されます。

卒後臨床研修修了証授与式挙行

令和3年3月15日（月）午後5時30分から、大学本館711特別講義室において、卒後臨床研修修了証授与式が挙行されました。【写真】

式は、藤原祥裕病院長を始め、祖父江元学長、若槻明彦医学部長、中野正吾卒後臨床研修センター長及び副センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。

始めに中野センター長から、医科及び歯科それぞれの代表1名に修了証が手渡されました。引き続き中野センター長から「初期研修医を修了した君たちは今後一人前の医師として扱われ、責任を負うこととなります。今まで以上に、患者さんファーストそして患者さんから学ぶという姿勢を忘れないでほしい。誠実な姿勢は必ず誰かが見ており、そして評価



をしてくれます。」との告辞があり、その後各出席者から祝辞がありました。

今回修了した30名（研修医27名、研修歯科医3名）のうち研修医24名、研修歯科医1名が本院の医師として、専門医や学位取得を目指すこととなります。本院での臨床研修の経験を生かし、より一層精進されることが期待されます。

ASGN・クリニカルラダー認定証交付式挙行

令和3年3月8日（月）午前10時から病院長室において、令和2年度ASGN（Aichi Medical University Hospital Super General Nurse）のクリニカルラダー認定証交付式が執り行われました。

ASGNは、看護部キャリア開発システムにおいてジェネラリストレベルV（特定の看護分野に関わらず、どの対象者に対してもその場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者）の実践能力を設定された看護師です。今回、新たに1名（高柳佳弘看護師）が認定され、藤原祥裕病院長から認定証が手渡され、ASGNに対する病院の期待を述べられました。

今後は臨床教育者（Clinical Educator）として、部署の指導、医学生や看護学生の臨地実習指導、院



藤原病院長、井上看護部長、副部長との記念撮影
（中央：高柳さん）

内認定制度Educator研修（静脈注射、膀胱留置カテーテル管理、化学療法管理）のインストラクターとして、院内研修の企画に携わっていきます。臨床教育者としての活動に期待します。

若葉ナース卒業式挙行

令和3年2月25日（木）大学本館たちばなホールにおいて、若葉ナース卒業式が挙行されました。今年度はコロナ禍における感染対策として出席者を若葉ナースと新人教育担当者の方に限定し2回に分けて行いました。

また、部署では卒業を迎えた若葉ナースと指導をした看護師、責任者とともに1年間を振り返り、若葉ナースの成長をともに喜び分かち合いました。今年度は部署から成長のお祝いと労いをメッセージライドとして映し、温かい卒業式となりました。

この式は、今年度で11回目となり、本院に入職した新卒看護職員が1年間を振り返るとともに、指導に携わった全ての先輩と互いに成長を祝う会となっています。国家試験を取得し、初めて本院に入職した新卒看護職員を「若葉ナース」と呼び、名札には初心者マークを付けて看護実践に携わっていますが、この卒業式をもって初心者マークから卒業しました。

式では井上里恵看護部長から新しい名札とともに若葉ナースコース研修を終えた初めてのクリニカル



成長のお祝いと労いメッセージ

ラダー（JNAラダー統合版）I認定証が手渡され、新人教育担当者には労いの言葉が掛けられました。

看護師特定行為研修修了証授与式挙行

令和3年3月25日（木）午後3時から、大学本館711特別講義室において、看護師特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

本院で、指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、令和2年度から看護師特定行為研修のクリティカル領域を開講しました。初年度は院内の看護師20名が、eラーニング講義、演習、修了テスト、臨床能力試験（OSCE）、病院実習を経て修了しました。

式では、看護師特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長から修了証が手渡されました。特定行為研修を修了した看護師は、医師とあらかじめ治療方針の確認を行い、患者さんの状態を見極め、



藤原病院長、井上看護部長らと記念撮影

手順書によって特定行為を実施することができます。

患者さんの状態に合わせ、必要な医療行為をタイムリーに行うことで、安心して満足して頂ける医療・看護が提供できることを目指していきます。

看護師特定行為研修開講式挙行

令和3年4月13日（火）午後3時から、大学本館701会議室において、看護師特定行為研修開講式が挙行されました。

本院は、令和2年度から看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、クリティカル領域を開講しています。令和3年度は、創傷管理領域を追加開講し、院外からも受講生を受け入れ、クリティカル領域14名、創傷管理領域3名が開講式に出席しました。

式では、道勇学病院長から激励され、看護師特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長からは受講生に対する期待と病院の役割を伝えられました。受講生は、高度かつ専門的な知識と技能を身につけることに対して、気持ちを新たに組み込んでいく様子が見られました。



道勇病院長からの激励



挨拶する井上看護部長

本院の看護師特定行為研修は、医師、診療看護師、特定行為研修修了者が指導者となり、患者さんに医療行為をタイムリーに行うことができる人材を育成していきます。

令和2年度第2回保険診療に関する講習会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されることが必須とされており、令和2年度第2回保険診療に関する講習会が、令和3年3月9日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて開催されました。

講習会のテーマは、「新型コロナウイルス感染症に関連する臨時的な診療報酬のまとめ」と題し、株式会社ソラストの坂井田晃氏から解説して頂きました。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時・特例措置が多数発出されました。今回は各項目に分けて臨時的な診療報酬の解説をして頂

き、新たな加算として令和3年4月1日以降、感染予防策を講じている医療機関には、現行の初診・再診料に加えて加算点数が付きます。診療報酬の取り扱いが不定期に変更されるため、変更の都度通知を確認し、漏れがないよう算定を行っていくことが重要であると再認識することができました。

当日は、新型コロナウイルス感染対策の一環として、講演時間の短縮、出席者全員のマスク着用、座席間隔を空けるなどの感染対策を講じ、医師、メディカルスタッフ及び事務職員など幅広い職種から138名の参加がありました。

メディカルクリニック防災訓練実施

令和3年3月25日（木）に愛知医科大学メディカルクリニック消防計画に基づき、防災訓練が実施されました。新型コロナウイルスの影響により、従来どおりの人が動く形式の訓練ではなく、初の試みとして机上訓練を実施しました。【写真】

訓練内容を火災が発生した場合に絞り、名古屋市東消防署からアドバイスを頂きながら、医師、臨床検査技師、薬剤師、診療放射線技師、看護師、事務により5回にわたり打合せを行い、「診察室6で出火があった場合」及び「地下の機械室で出火があった場合」の二つのケースについて対応フローを作成しました。

訓練当日は、事例が発生した場合、実際に誰がどのように行動するのか、フローに則り動作確認をしました。また、メディカルクリニックが入っている



マンション（東桜スカイハイツ）の住民代表の方にも参加して頂きました。

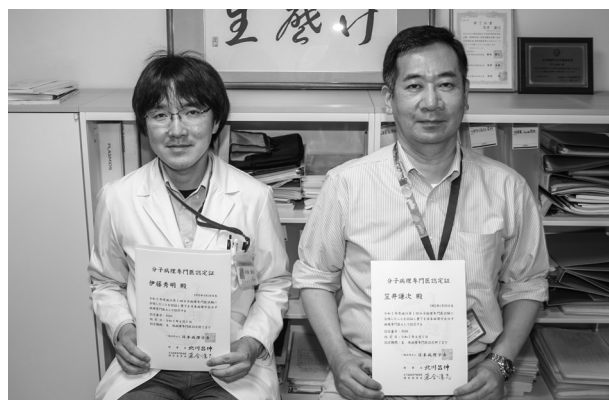
火災発生時に職員が適切で円滑な対応ができるよう、今後もより一層実用性のある訓練の実施に努めて参ります。

病理学講座 笠井教授、伊藤講師 第1回分子病理専門医試験合格

医学部病理学講座の笠井謙次教授及び伊藤秀明講師が、令和2年12月に実施された日本病理学会による「第1回分子病理専門医試験」に合格し、専門医登録をされました。

この分子病理専門医というのは、本邦のがんゲノム医療推進のため新たに創設された専門医制度です。令和元年6月に保険収載された遺伝子パネル検査を用いたがんゲノム医療では、専門家会議（エキスパートパネル）等での遺伝子診断・治療法決定が必須となっています。分子病理専門医は、この専門家会議において病理診断学とともにがん遺伝学、分子生物学の卓越した知識のもと助言等が可能な能力の優れた専門医を育成する為に創設されました。

分子病理専門医は、病理専門医の中から、がんゲノム医療の臨床実地を行い、専門講習を受講し、筆記試験に合格した者に対し認定されるものであり、今回は第1回目として261名が受験し220名が合格（合格率84%）しています。グランドファーザーズ



認定証を手に伊藤講師と笠井教授

ルール適応者を加えた計232名が第1回の分子病理専門医として登録されました。

笠井教授及び伊藤講師から「今後は本学のがんゲノム医療の益々の推進に寄与したいと考えています。今回の受験に際しご指導・ご配慮頂いた臨床腫瘍センター三嶋秀行教授、久保昭仁教授（特任）を始めスタッフの皆さま、病理診断科の都築豊徳教授に感謝申し上げます。」との感想がありました。

内科学講座(肝胆膵内科) 伊藤清顕教授(特任)の研究グループ B型肝炎の感染を妨げる物質の発見



医学部内科学講座(肝胆膵内科)の伊藤清顕教授(特任)【写真】、奥村彰規特別研究助教らの研究グループは、広島国際大学薬学部及び国立感染症研究所との共同研究で、B型肝炎ウイルス(HBV)に結合して肝臓への感染を防御

する新たな抗ウイルス作用を持つ特定の胆汁酸誘導体を発見しました。

HBVの持続感染者は、世界で2億6千万人とも言われ、現在も拡大し続けています。国内では人口の1%程度(100万人～130万人)が持続感染していると推定されており、肝硬変や肝臓がんの原因になります。現在B型肝炎の治療に使用されている薬剤は、副作用の問題があることや、肝臓からHBVを完全に排除することができないという点から新しい作用を持つ抗HBV剤の開発が期待されています。今回、伊藤教授(特任)の研究グループは、この胆汁酸誘導体の経口投与によりHBVの感染が阻害されることを動物実験で明らかにされました。本研究は、日本医療研究開発機構(AMED)・肝炎等克服実用化研究事業・B型肝炎創薬実用化等研究事業「胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御」(研究開発代表者 伊藤清顕)の支援を受けています。

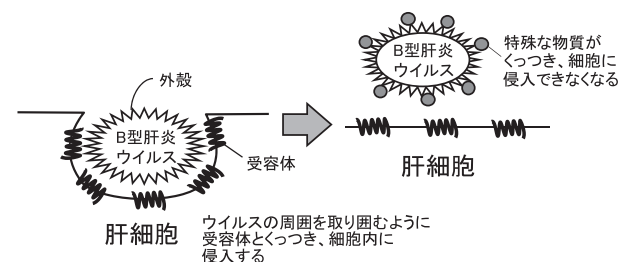
また、研究成果が、2021年1月12日(米国時間)の「Hepatology誌」に掲載されました。

論文タイトル: Dual Agonist of Farnesoid X Receptor and G Protein-coupled Receptor TGR5 Inhibits Hepatitis B Virus Infection in Vitro and in Vivo (FXRとTGR5のデュアルアゴニストはin vitro及びin vivoでB型肝炎ウイルス感染を抑制した。)

研究の代表者である伊藤教授(特任)から「今回、我々はB型肝炎ウイルス(HBV)に対して胆汁酸の代謝調節機構に着目するという全く新たな発想から、B型肝炎に対する新しい飲み薬の開発に繋がる発見をしました。2012年にHBVは肝細胞膜上の胆汁酸の輸送体となるナトリウム依存性胆汁酸輸送担体(NTCP)というトランスポーターに結合してウイルスに感染することが明らかになりました。我々は、NTCPが胆汁酸の輸送体であることに

注目し、当科の米田政志教授から『胆汁酸により核内受容体を刺激すれば、NTCPが抑えられHBVの感染を抑制できるかもしれない。』というアドバイスを頂き、様々な胆汁酸の抗HBV作用を試してきました。その結果、HBVの感染を強く抑える胆汁酸の一種を発見することができました。我々は、胆汁酸がNTCPを利用して肝細胞内に取り込まれるため、今回発見した胆汁酸がNTCPに作用してHBVとの結合を阻害するものと予想していたのですが、研究を進めていくうちにこの胆汁酸は予想に反して主にHBVに結合して感染を阻害するというところをつきとめました(図)。この作用を利用して、ヒトの肝細胞を移植したキメラマウスにおいてHBVの感染実験を行ったところ、この胆汁酸がHBVの感染を強力に阻害することを確認できました。胆汁酸はおよそ95%が小腸で吸収されて肝臓に運ばれますので、胆汁酸を薬剤として利用することは肝臓に感染するHBVに対してこれまでにないタイプの有効な飲み薬になることが期待できます。

最近では、C型肝炎ウイルス(HCV)に対して内服薬を8週間投与することで95%以上の患者さんでウイルスを完全に排除することができるようになり、C型肝炎に対しては将来の撲滅が見えてきました。一方で、HBVは肝細胞の核の中に侵入して増殖するため、肝臓から完全に排除することは難しいと考えられています。私が担当しているウイルス性肝炎の専門外来でも多くの患者さんから『B型肝炎も早く完全に治る薬を開発してほしい。』という希望が寄せられています。今回の我々の発見はHBVの排除を可能にする薬剤の開発に繋がる可能性があります。これからもまだまだ研究を進める必要がありますが、将来多くの患者さんの治療に役立つようになることを期待しています。」との感想がありました。



海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、医学部生化学講座の太田明伸講師が海外研修へ参加されましたので、その研修記をご紹介します。

太田明伸 (生化学講座・講師)

研修課題：新型コロナウイルスに対する自然免疫応答と抗ウイルス作用の解析

研修先：ワシントン大学（米国・シアトル）

研修期間：令和元年8月26日～令和3年1月18日

この度、本学の海外研修派遣制度からのご支援を頂き、ワシントン大学（University of Washington）の免疫学講座において、1年5か月間の研究活動を行いました。1861年に創設されたワシントン大学は、米国西海岸で最も古く、学部学生数が30,000人を超える総合州立大学です。7名のノーベル賞受賞者（教授4名・卒業生3名）を輩出する一方で、卒業生にはブルース・リーやボブ・サップの名もあります。キャンパスには、荘厳なゴシック建築のスザロ図書館などの歴史的建造物が併設され、国際色豊かな学生とともに学びの場が醸成されています。メインキャンパスから南へ車で10分のダウンタウンには、シアトル・マリナーズの本拠地であるTモバイルパーク、スターバックス1号店のあるパイクプレイス・マーケットがあり、その北側のサウスレイクユニオン地区には、近年成長著しいAmazonの本社や医学部研究所などが立ち並びます。私は、シアトルの東隣にあるBellevue（ベルビュー）に居を構え、バスと徒歩で1時間ほどかけて通勤していました。ベルビューには、小中高生が通う日本語補習校があり、ワシントン州の中でも日本人が多く住んでいるエリアとなっています。

私が師事したMichael Gale Jr.教授は、RNAウイルスが自然免疫応答を活性化するメカニズムを解析し、その分子メカニズムを応用したワクチン・アジュバント・治療薬の開発に取り組んでいます。私は、Gale研究室において新型コロナウイルスに対する自然免疫応答の活性化と抗ウイルス作用の解析を行いました。

ウイルスは、標的となる細胞に感染し、その細胞の助けによって複製します。細胞に侵入したウイルスは、自らもつDNA（又はRNA）を細胞内に放出しますが、この時にウイルスを感知する分子（パターン認識受容体：PRR）がウイルスDNA（又はRNA）を捕まえると、ウイルスを退治するシグナルが次々と活性化します。ウイルスは、PRRを介した活性化に抵抗することもあります。自然免疫は、マクロファージやナチュラルキラー細胞だけのものと思われがちですが、気管支・肺など組織の内腔に



実験室での一コマ



休日には近郊のトレイルを散策

ある多くの上皮細胞にもその仕組みは備わっており、生体防御の最前線にある重要な免疫機構です。

自然免疫が活性化すると、「インターフェロン」と呼ばれるタンパク質が増えて、ウイルスの分解が促されます。しかし、過剰な自然免疫応答は組織障害につながることもあります。自然免疫は、言わば「もろ刃の剣」となり得る免疫機構です。一方、リンパ球の活性化による抗体産生は「獲得免疫」と呼ばれ、抗体はウイルスの侵入を防ぎます。ワクチン投与は、感染制御に有効な抗体を作り出します。

感染力を保持した新型コロナウイルスを用いた解析には、バイオセーフティレベル3（BSL3）の施設が必要です。BSL3トレーニングを受講後、私は新型コロナウイルスをヒト呼吸器細胞に感染させ、活性化シグナルを分子レベルで解析し、抗ウイルス作用の発現に重要な経路を見出しました。帰国後も、Gale教授とオンライン会議を続けており、国際的な研究体制の構築につながることを期待しています。

最後に、貴重な海外研修の機会とサポートを頂きました生化学講座のスタッフ及び愛知医科大学の関係者の皆さま方に深謝致します。ありがとうございました。

事務職員資格取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・ディベロップメント）実施に関する基本方針のもと、事務部門では、「具眼」にあたる具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。2020年4月～2021年3月までに、計12名の事務職員が、各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。習得した知識・技能を業務へ活かして頂き、更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



医療経営士3級	研究支援課 地域医療連携課	小栗 徹也主査 (2020.11.18) 稲葉 茂主査 (2020.11.18)
情報セキュリティマネジメント試験	総合学術情報センター事務室	山辺 康夫担当課長 (2021.1.28)
ビジネス実務法務検定試験3級	管財・契約室 総務・秘書室	浅井 敏孝主査 (2020.12.6) 川邊 健太主事 (2020.12.6)
ビジネス文書技能検定試験2級	管財・契約室 管財・契約室	江村 敦史主査 (2020.11.29) 桂川 貴晃主事 (2020.11.29)
ビジネス文書技能検定試験3級	学 生 課	高橋 佑太主事 (2020.11.29)
Photoshopクリエイター能力認定試験	教 学 課	野々 健太主事 (2021.1.30)
Microsoft Office Specialist Office Word 2016	医 事 課	伊藤 友一主事 (2020.10.25)
Microsoft Office Specialist Office Excel 2016	医 事 課 医 事 課	伊藤 友一主事 (2020.6.22) 那須 彩花主事 (2021.3.27)
Microsoft Office Specialist Office Word 365&2019	総合物流センター事務室	加藤 佑輝主事 (2021.2.13)

※資格取得当時の所属・役職を記載

学 術 振 興

2021年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型)	3	9,500
基盤研究 (B) (一般)	14	102,602
基盤研究 (C) (一般)	129	220,716
挑戦的研究 (開拓)	1	7,000
挑戦的研究 (萌芽)	5	14,015
若手研究	48	76,957
学術変革領域研究 (A) (公募研究)	2	6,000
学術変革領域研究 (B) (計画研究)	2	30,000
合計	204	466,790

※2021年度分の申請金額 (2021年4月1日時点)

研究助成等採択者

◇公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団

加藤記念研究助成

・氏 名 池上啓介 (生理学講座・講師)
 研究題目 眼房水の産生排出によって眼圧概
 日リズムを統御する仕組みの解明
 助成金額 2,000,000円

◇一般社団法人日本がん看護学会

がん看護研究助成

・氏 名 中村正子 (看護学部・講師)
 研究題目 緩和ケアに関心を持つ看護師やリ
 ンクナースへの緩和ケアを腫瘍学
 に統合 (Integration) した教育プ
 ログラム構築への課題検討
 助成金額 300,000円

◇公益財団法人ノバルティス科学振興財団

ノバルティス研究奨励金

・氏 名 武内恒成 (生物学・教授)
 研究題目 AIモーションキャプチャーによ
 る中枢神経損傷後生理機能回復-
 シナプスコネクターと再生阻害因
 子制御を利用した脊髄損傷後超回
 復モデル-
 助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人市原国際奨学財団 研究助成

・氏 名 高村祥子 (感染・免疫学講座・教授)
 研究題目 肝細胞の生存・死滅を左右する
 Toll-like Receptor (TLR) 応答の
 関与と決定因子の同定
 助成金額 500,000円

・氏 名 林寿来 (生理学講座・講師)
 研究題目 網膜色素上皮細胞のバリア障害の
 メカニズムの解明と制御機構の開
 発
 助成金額 500,000円

◇公益財団法人高橋産業経済研究財団 助成金

・氏 名 小西裕之 (生化学講座・教授 (特任))
 研究題目 医療応用を指向する安全で高精度
 な新規ゲノム編集法 tandem
 paired nicking 法の開発研究
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人喫煙科学研究財団

研究助成 (若手研究)

・氏 名 山村彩 (生理学講座・講師)
 研究題目 低酸素肺血管障害からアプローチ
 する慢性呼吸器疾患の分子機構の
 解明
 助成金額 1,500,000円

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



茂木 幹雄

学位授与番号 甲第579号

学位授与年月日 令和3年2月4日

論文題目：「Deficiency of glucagon

gene-derived peptides induces peripheral polyneuropathy in mice (マウス末梢神経系におけるグルカゴン遺伝子由来ペプチドの生理的役割の解明)」



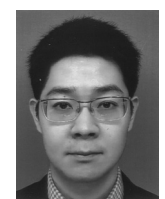
岩田 英紘

学位授与番号 甲第580号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「UroVysion[®] predicts

intravesical recurrence after radical nephroureterectomy for urothelial carcinoma of the upper urinary tract: a prospective study (UroVysion[®]は上部尿路上皮癌に対する腎尿管全摘出術後の膀胱内再発を予測する：前向き研究)」



小川 高生

学位授与番号 甲第581号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Hearing-impaired

elderly people have smaller social networks: A population-based aging study (難聴高齢者は社会的ネットワークのサイズが小さい。地域在住高齢者における検討)」



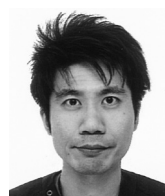
加藤 誠

学位授与番号 甲第582号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Secreted Factors from

Stem Cells of Human Exfoliated Deciduous Teeth Directly Activate Endothelial Cells to Promote All Processes of Angiogenesis (ヒト乳歯歯髓幹細胞由来の分泌因子は、血管内皮細胞を直接活性化し血管新生のすべての過程を促進する)」



金杉 丈

学位授与番号 甲第583号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Biallelic loss of

FAM46C triggers tumor growth with concomitant activation of Akt signaling in multiple myeloma cells (*FAM46C*両アレル欠失は骨髓腫細胞の増殖亢進PI3K-AKT経路活性化を引き起こす)」



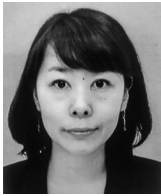
畔柳 佳幸

学位授与番号 甲第584号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Effectiveness and

nephrotoxicity of a 2-year medium dose of cyclosporine in pediatric patients with steroid-dependent nephrotic syndrome: determination of the need for follow-up kidney biopsy (小児ステロイド依存性ネフローゼ症候群における中等量シクロスポリン投与の有効性と腎毒性の検討：フォローアップ腎生検は必要なのか?)」



小暮 望

学位授与番号 甲第585号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Treatment and Healthcare Cost Among Patients with Hip or Knee Osteoarthritis: A Cross-sectional Study Using a Real-world Claims Database in Japan Between 2013 and 2019 (変形性股関節症または変形性膝関節症患者における治療と医療費：2013年から2019年までの日本におけるレセプトデータベースを用いた横断的研究)」



露木 琢司

学位授与番号 甲第588号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Prevalence and Clinicopathological Features of Intestinal Perforation Caused by Segmental Absence of the Intestinal Musculature in Adults (成人の消化管穿孔における限局性消化管固有筋層欠損症の頻度と臨床病理学的特徴)」



杉江 美穂

学位授与番号 甲第586号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Presence of Corpora Amylacea Among Prostate Cancer Cells: An Unrecognized Feature of Intraductal Carcinoma of the Prostate. (癌腫内前立腺石とIntraductal carcinoma of Prostate の関連)」



中川 哲志

学位授与番号 甲第589号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「In vitro and in vivo antibacterial activity of nitrofurantoin against clinical isolates of E. coli in Japan and evaluation of biological cost of nitrofurantoin resistant strains using a mouse urinary tract infection model (本邦分離の大腸菌に対するニトロフラントインのin vitro およびin vivo 薬効の検討とニトロフラントイン耐性菌の生物学的なコスト)」



鈴木 俊昭

学位授与番号 甲第587号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Treatment patterns in pancreatic cancer patients based on a hospital claims database in Japan (日本の病院請求データベースに基づく膵臓がん患者の治療パターンの研究)」



西尾 佳朋

学位授与番号 甲第590号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Treatment outcome of oral appliance in patients with REM-related obstructive sleep apnea (REM関連閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置の治療効果について)」



松岡 直也

学位授与番号 甲第591号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「The effectiveness and safety of computed tomographic peritoneography and video-assisted thoracic surgery for hydrothorax in peritoneal dialysis patients: A retrospective cohort study in Japan (腹膜透析患者の横隔膜交通症に対する腹腔内造影CT検査およびVATSの効果に関する本邦での多施設後ろ向き研究)」



村瀬 陽太

学位授与番号 甲第594号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「The highest Fuhrman and WHO/ISUP grade influences the Ki-67 labeling index of those of grades 1 and 2 in clear cell renal cell carcinoma (淡明細胞型腎細胞癌においてFuhrman分類及びWHO/ISUP分類による最大核グレードはGrade 1及びGrade 2のki-67 labeling indexに影響を与える)」

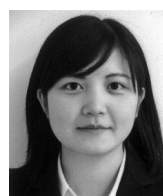


ムハマド モニルル イスラム

学位授与番号 甲第592号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Inorganic arsenic administration suppresses human neutrophil function *in vitro* (ヒ素のヒト好中球機能に及ぼす *in vitro*の解析)」



近藤 さゆり

学位授与番号 甲第595号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Discovery of novel molecular characteristics and cellular biological properties in ameloblastoma (エナメル上皮腫における新しい分子特性と細胞生物学的特性の発見)」



ムハンマド シュリーフ モヒウディン

学位授与番号 甲第593号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Glucagon-Like Peptide-1 Receptor Agonist Protects Dorsal Root Ganglion Neurons against Oxidative Insult (グルカゴン様ペプチド-1受容体アゴニストは、酸化傷害から後根神経節ニューロンを保護する)」



下田 昌弘

学位授与番号 甲第596号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Early-Phase Vascular Healing of Bioabsorbable vs. Durable Polymer-Coated Everolimus-Eluting Stents in Patients With ST-Elevation Myocardial Infarction— 2-Week and 4-Month Analyses With Optical Coherence Tomography — (ST上昇型心筋梗塞患者に留置した生体吸収性ポリマーあるいは恒久性ポリマーにおける留置2週間後・4か月後のOCTを用いた早期血管内反応について)」



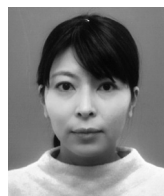
後藤 礼司

学位授与番号 甲第597号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Independent predictors

of discordance between the resting full-cycle ratio and fractional flow reserve (安静時フルサイクル比 (RFR) と冠血流予備量比 (FFR) の間で不一致が生じる独立した予測因子の検討)」



齋藤麻耶子

学位授与番号 甲第600号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Association of maternal

history of allergic features with preterm pregnancy outcomes in the Japan Environment and Children's Study (子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査) における母親のアレルギー既往と早産との関連について)」



内藤 千裕

学位授与番号 甲第598号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Impact of antiplatelet

therapy on tissue prolapse at super acute phase after stenting: serial OCT study in acute coronary syndrome patients (急性冠症候群患者におけるステント留置後の超急性期のステント内prolapseに対して抗血小板療法の違いが及ぼす影響：OCTによる検討)」



仲上 祐也

学位授与番号 甲第601号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「Potential role of

Howell-Jolly bodies in identifying functional hyposplenism: a prospective single-institute study (機能的脾機能低下症の同定におけるハウエルジョリー小体の潜在的役割：前向き単一施設研究)」



大橋 寛史

学位授与番号 甲第599号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「D i a g n o s t i c

Performance of High-Resolution Intravascular Ultrasound for the Detection of Plaque Rupture in Patients With Acute Coronary Syndrome (急性冠症候群患者におけるプラーク破裂の検出に関する高解像度血管内超音波の診断性能)」



奥村 将年

学位授与番号 甲第602号

学位授与年月日 令和3年3月11日

論文題目：「Development of an

easy-to-use questionnaire assessing critical care nursing competence in Japan: A cross-sectional study (重症ケア看護コンピテンシーを測定する質問紙の開発；国内横断研究)」



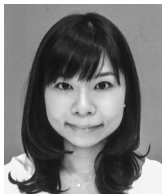
櫻田 昂大

学位授与番号 甲第603号

学位授与年月日 令和3年3月11日

論文題目：「Effects of androgenic

properties of progestin combined with ethinyl estradiol on vascular endothelial reactivity, plasma lipids, and free radical production in women with endometriosis (子宮内膜症患者におけるエストロゲン、プロゲスチン配合剤の男性ホルモン作用が血管内皮機能、血漿脂質、フリーラジカル産生に及ぼす影響)」



加藤 徳子

学位授与番号 甲第604号

学位授与年月日 令和3年3月11日

論文題目：「Immediate response to

apremilast in patients with palmoplantar pustulosis: a retrospective pilot study (掌蹠膿疱症患者におけるアプレミラストの内服効果：後ろ向きパイロットスタディ)」



菅 太一

学位授与番号 甲第605号

学位授与年月日 令和3年3月25日

論文題目：「Association of Matrix

metalloproteinase-2 mRNA expression with subtypes of pediatric cholesteatoma (Matrix metalloproteinase-2 mRNA発現と小児真珠腫のサブタイプとの関連性)」



山田祐一郎

学位授与番号 甲第606号

学位授与年月日 令和3年3月25日

論文題目：「Alterations of retinal

thickness measured by optic coherence tomography correlate with neurophysiological measures in diabetic polyneuropathy (光干渉断層計によって測定された網膜の厚さの変化は、糖尿病性多発神経障害における神経生理学的変化と関連している)」



堀尾 知弘

学位授与番号 乙第409号

学位授与年月日 令和3年2月4日

論文題目：「Donor Heme

Oxygenase-1 Promoter Gene Polymorphism Predicts Survival after Unrelated Bone Marrow Transplantation for High-Risk Patients (ドナーのヘムオキシゲナーゼ-1プロモーター遺伝子多型は、高リスク患者の非血縁者間骨髄移植後の生存を予測する)」



菱田 健作

学位授与番号 乙第410号

学位授与年月日 令和3年2月18日

論文題目：「Effects of Fibroblast

Growth Factor 2 on Burn Injury and Repair Process: Analysis Using a Refined Mouse Model (熱傷治癒促進機構における線維芽細胞増殖因子-2の役割：改変マウスモデルを用いた解析)」

◆大学院看護学研究科



小岩 大介

学位授与番号 第134号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「診療看護師(NP)の精神的健康度に関する実態調査－精神的健康度とレジリエンス・首尾一貫感覚との関係性検討－」



脇田 篤

学位授与番号 第139号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「臨床実践における診療看護師(NP)との関わりを通して得られる看護師の認識」



西尾 光貴

学位授与番号 第135号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「診療看護師(NP)の倫理的感受性の特徴と体験する倫理的問題の実態調査」



渡部 秀悟

学位授与番号 第140号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「診療看護師(NP)の役割獲得に向けたトランジションの様相」



丹羽甲之介

学位授与番号 第136号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「看護師の疼痛に対する認識と共感性の影響」



水谷 卓史

学位授与番号 第141号

学位授与年月日 令和3年3月29日

論文題目：「特定機能病院の病棟看護師に必要な退院支援の役割の認識に関する実態調査」

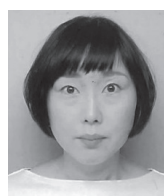


広田 遼一

学位授与番号 第137号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「模擬診察における診療看護師(NP)のコミュニケーション分析－The Roter Method of Interaction Process Analysis System (RIAS) を用いて－」

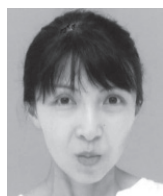


小室 聖子

学位授与番号 第142号

学位授与年月日 令和3年3月29日

論文題目：「育児中の男性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの特徴－育児中の女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトとの比較－」



三好 梨恵

学位授与番号 第138号

学位授与年月日 令和3年3月6日

論文題目：「診療看護師(NP)の自律性と情動知能の関係性の検討」

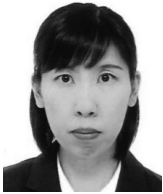


森本 直樹

学位授与番号 第143号

学位授与年月日 令和3年3月29日

論文題目：「急性期病棟に勤務する看護師のJob Craftingの傾向と関連する要因についての研究」



和田 恵子

学位授与番号 第144号

学位授与年月日 令和3年3月29日

論文題目：「地域包括支援センター

保健師の介護予防に必要な地域看護実践能力の実態」

本学講座等の主催による学会等

第26回日本脳神経外科救急学会

脳神経外科学講座・教授 宮地 茂

第26回日本脳神経外科救急学会は、脳神経外科学講座の宮地茂教授を会長として、令和3年2月5日（金）・6日（土）に大学本館4階第1会議室をメイン会場として開催させて頂きました。コロナ禍の中、それでも当初は会場開催とWeb配信のハイブリッド形式で行うことを目指して準備して参りましたが、年が明けて主要都市に緊急事態宣言が発令されるにあたり、現地開催は断念せざるをえなくなり、史上初の完全オンライン開催となりました。機器展示、懇親会などの企画も不可能となり、かなりコンパクトな学会となってしまいましたが、それなら中身だけは充実させようということで、現在直面している社会問題の中で、我々の学会こそが取り組むべき課題を主に抽出しました。テーマは、我々の学会の最終的な目標であり、かつ叫ぶべきスローガンをそのまま表現しました。

脳を救うぞ！

セッションとして、緊急特別シンポジウム、二つの特別シンポジウム、八つのシンポジウム、それに

コメディカルセッションと教育セッションを企画し、一般演題も広く公募致しました。全部で135演題（シンポジウム、教育セッション等で84演題、一般51演題）という、コロナ禍の非常事態においても多くの演題をお寄せ頂きました。またWeb視聴という馴染みのない形式にもかかわらず、二日間で335名ものご参加、ご視聴を頂きました。また閉会后も、オンデマンド配信のセッションの視聴のため20名ほど新たにご登録頂きました。ご参会、ご支援頂いた皆さまには、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

この中で、特に特別シンポジウム「救うぞ！運転者を」においては、高齢者ドライバーの増加に伴い多発している逆走、踏み間違い、運転者急病などが原因の交通事故について取り上げました。また安全装置開発の現状についてトヨタの最新技術をご発表頂き、医療と工学技術の両面からこの問題についてアプローチする重要性が明らかとなりました。シンポジウムの「救うぞ！子供を」では、乳幼児の神経救急について学べたほか、社会問題となっている小児虐待を取り上げました。この学会ではこれまであ

まり取り上げられてこなかった脊髄にもスポットをあて、特に現在最も注目されている脊髄再生療法について、我が国を代表するエキスパートの3名の先生から最新の進捗と結果をご講演頂きました。

また、脳卒中・循環器対策基本法や血栓回収療法に対する実施医基準が制定され、急性期脳卒中への対応はこの一年で大きく変化してきました。「救える環境をつくるぞ」のセッションでは、働き方改革による救急医の労働環境の補償や、社会保障制度改革に伴う医療体制の問題も含めて最新の取り組みが発表されました。更に、全国消防本部にご協力頂いたアンケートでは、脳主幹動脈閉塞患者の判別スケールの地域差及び徹底不足や、専門医師の不在による搬送体制の問題などが浮き彫りになり、今後の課題とされました。

一方、COVID-19の大感染により、神経救急の現場でも多大なる負担と制限が課され、医療環境も危機的状況まで陥っております。この喫緊の重大問題については緊急特別シンポジウムとして、各施設の対応法や取り組みについて発表して頂きました。

文化講演をお願いしたのは、産経新聞の元論説委員で、作家、ジャーナリストの河合雅司先生です。名古屋のご出身である河合先生は「未来の年表」などのシリーズで人口減少社会の行く末について警鐘を鳴らしておられますが、医療環境の整備、特に僻地医療を含む診療体制についても取り組んでいく必要性をお話し頂きました。

今回、社会に向けて情報提供をし、メッセージを発信することで国民に還元していくことも学会の重要な責務と考え、そのコンセプトに従って企画を構



プログラム・チラシ



特別シンポジウム2-1セッションの画面

成しましたが、ある程度のアピールと貢献はできたのではないかと感じております。テーマのうち、「救える環境を作るぞ」と、「救うぞ!『運転者』を!」の二つの特別シンポジウムについては、メディアでも取り上げられました。

本会において参会管理、Web配信を完璧に行って頂きました運営スタッフの皆さま、事務局長を始めとして作業を献身的にサポートしてくれた医局員の皆に心より感謝致します。

最後になりましたが、皆さまの今後のご発展とご健勝を祈念致しますとともに、新型コロナウイルス感染症の1日でも早い収束を願っております。

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

総合腎臓病センター

慢性腎臓病という概念が提唱され、国民8人に一人が本疾患に罹患し、国民430人に一人が透析療法を受けていることがわかり腎臓病の重要性が一層認識されるようになりました。本院では、腎臓・リウマチ膠原病内科において、腎臓病の診断、保存期腎不全の治療、末期腎不全の血液浄化療法（血液透析、腹膜透析）を提供してきましたが、早期発見、早期治療、小児から成人、更に高齢者まですべての年代の腎疾患に対応する必要性や腎移植療を含む腎代替療法の充実などを図る必要性が高まり、2016年に総合的に腎臓病を診ることを主眼として「総合腎臓病センター」を設立しました。

単なる血液浄化療法センターではなく、一つの総合腎臓病センターの中で、より密に連携した質の高い医療が提供できることが可能になりました。腎臓専門医（内科、小児科）、透析専門医、腎移植専門医、看護師、腎臓病療養指導士、臨床工学技士、管理栄



スタッフの集合写真

養士、移植コーディネーターの各分野のスペシャリストが集まり、腎臓病の早期発見・診断・治療から、腎不全進展の抑制、合併症の予防・治療、患者さん一人ひとりのニーズに則した適切かつ、質の高い腎代替療法の選択を提供しています。腎代替療法の選択においてもShared Decision Making（協同意思決定）に基づいて多職種との話し合いで患者さんに最適な治療を提供できるように努めています。

周産期母子医療センター 周産期医療部門

愛知医科大学病院周産期母子医療センターは、2006年に開設以来、正常妊娠からハイリスク妊娠まで全ての妊婦を対象に、妊娠、分娩、産褥、新生児管理を行ってきました。

特に本院では、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、胎児異常などの異常妊娠、糖尿病や血液疾患などの基礎疾患を有する合併症妊娠などのハイリスク妊娠を多く扱っております。周産期医療部門では、妊娠中に母体と胎児の異常を診断し、その後の妊娠、分娩、産褥管理を行います。

一方、出産後は速やかに新生児管理・治療が行えるように、妊娠中から新生児科、小児外科、脳外科などの専門医師に相談できる周産期医療体制を整えております。産科医、新生児医と医療スタッフによる週二回のカンファレンスにより、関係する医療ス



スタッフの集合写真

タッフ全員が妊婦と胎児の病状を共有できるようにしております。

また、緊急帝王切開術が必要な場合には、麻酔科医や手術室スタッフによる迅速な対応により、速やかな見娩出も可能となっています。近隣地域の産婦人科の先生方から多くの妊婦さんをご紹介頂き、年間分娩数約500例、母体搬送数約150例と、周産期医療スタッフ一同一丸となって地域周産期医療の一翼を担っております。

周産期母子医療センター 新生児集中治療部門

新生児集中治療部門（NICU）は、2006年に二村眞秀教授（現名誉教授）が中心となり開設、NICU 9床、GCU18床を有し、院内出生のハイリスク新生児や院外出生の病的新生児のケアを行ってきました。

年々近隣の施設からご紹介頂けるようになり、年間200名程度のお子さんをお預かりしております。超出生体重児や極低出生体重児など大変未熟なお子さんでも年間20～30名ケアさせて頂いており、国内トップレベルの治療成績を収めております。

病棟理念として、「病的新生児」のみならず「ご家族」や「NICUにお越し頂く他の職種」が安らげるNICUづくりを掲げ、スタッフ一同日々精進を続けております。その一環として行っている「ご家族



NICUの様子

に参加して頂く多職種協働の回診」は、国内でも新しい試みとして注目を集めています。また、赤ちゃんの痛みケアにも取り組み、学術的な報告も行っています。

今後ご家族や地域の周産期医療を担う関係者から信頼頂けるよう、更に素敵なNICUを目指して尽力して参ります。

楽しく学び，共に成長し，世界にはばたく

外科学講座（腎移植外科）・教授 小林 孝彰

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

私どもの講座は、医師、レジピエント移植コーディネーター、看護師、薬剤師、研究者など多職種が臨床・教育・研究に関わっており、下記をモットーに学生（クリクラ、大学院生）や研修医の指導を行っています。

(1) ENTHUSIASM（情熱をもって）

熱く語り、そして耳を傾けることを大切にしております。臨床で疑問（質問）があれば、ミニレクチャーを行い、カンファレンスでは多くの意見を引き出し、議論を交わすことを心がけています。夕方には、その日の出来事について質問を促します（質問がなければ終了しません）。カンファレンスでも、主体的に発表する機会を与え、質問しやすい環境を作っています。専門的な議論に参加できなくても、できる範囲で理解を求めます。このような経験を通して、常に積極的に学ぶ姿勢を身に付けます。

(2) DRIVE（モチベーションを明確に）

本人自身だけでなく本学の将来を考えて、学内研修、学外での武者修行、最後には本学に戻って活躍して欲しいことを伝え、専門医制度、大学院進学の意味についてもお話しします。腎移植外科は、サブスペシャルティに属するため、専門研修は、外科、泌尿器科、内科、小児科などで行い、プログラム終了後に本格的に移植の認定医を目指しますが、ローテート研修中に腎移植外科を選択して頂くことも大歓迎です。腎移植は手術が出発点であり、その後は長期にわたる内科的な管理が重要となり、外科から内科まで幅広い経験ができます。

(3) MOVE FORWARD TOGETHER（一緒に前に進む）

一番重要なことですが、ともに成長することです。教育は与えるものではありません。私たちも学生から学んでいます。学ぶ内容をこちらから提示することはありますが、学生、研修医自らが疑問に感じ、興味を持った内容を掘り下げていきます。臨床、研究を通しての人材育成、これが大学の一番重要なミッションであると思っております。

【世界に発信する医学研究】

移植領域においては、多くの課題が残されています。ドナー不足と長期成績の更なる改善は、特に重要な問題です。私どもの講座には、臨床チームと研究者の交流の場として腎疾患・移植免疫学寄附講座があります。ここでは、本学関連講座の医師、薬剤師、大学院生、学外の施設からも参加して、臨床に即した研究をすぐに実行できるシステムを構築しております。クリクラの学生も、研究カンファレンスに参加することで、その雰囲気を経験し、リサーチマインド（探究心、研究心）を持つ医師の育成につながると信じております。

現在の研究内容の詳細は省きますが、腎移植長期予後のための個別化医療を目標とした、「免疫モニタリングの樹立」、「慢性抗体関連型拒絶反応の早期診断・治療」、「ドナー特異的HLA抗体産生を制御するT細胞受容体レパトア解析」、「Graft Accommodation誘導」、「BKV感染リスク因子解析と制御」、「Autophagy制御による移植腎保護」などがあり、ドナー不足問題を解決すべく、「臍島移植」、「異種移植」に関する研究も行っています。2021年度において、基盤(B)、(C)、開拓、スタートアップなど八つの科研費を取得しております。遠方からでもZoomを用いた研究ミーティングへの参加が可能になりました。

学内外の大学院生3名、研究員5名とともに、楽しく研究し、世界への情報発信を行っています。

【部署からの一言】

移植医療は、ドナーが必要という他の診療科にはない医療です。外科から内科、心の問題まで、移植を通して人生を学ぶことができます。解決すべき課題が多く残されており、やりがいのある診療科だと思います。本講座の教員3名は、みな留学経験があり、本年度は大学院生（修了後と在学中）2名がアメリカに留学する予定です。

本学の学生は、優秀であるほど謙虚です。世界で活躍するために、自信を持って多くの経験をして欲しいと思います。



集合写真



クリクラ学生とともにカンファレンス

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

メディカルセンター設置に伴う 関係規則の整備

医学部附属施設として、新たにメディカルセンターを設置することに伴い、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学メディカルセンター規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター就業規則
- ・愛知医科大学メディカルセンター嘱託職員規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター非常勤職員規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター育児又は介護休業等に関する規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター給与規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター準職員給与規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター家族手当支給要綱
- ・愛知医科大学メディカルセンター住宅手当支給要綱
- ・愛知医科大学メディカルセンター通勤手当支給要綱
- ・愛知医科大学メディカルセンター慶弔見舞金規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター退職給与規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター旅費規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター職員教育規程
- ・メディカルセンターに所属する職員への人事関係規則の適用に関する規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（介護保険）

【一部改正】

- ・理事会の運営方針
- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・事務組織の所掌事務細目について（法人本部長裁

定）

- ・学校法人愛知医科大学文書規程
- ・法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準
- ・学校法人愛知医科大学公印規程
- ・学校法人愛知医科大学就業規則
- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・管理職の職務の代理に関する要綱
- ・学校法人愛知医科大学給与規程
- ・管理職手当に関する細則
- ・学校法人愛知医科大学経理規程
- ・学校法人愛知医科大学固定資産管理規程
- ・愛知医科大学学則
- ・愛知医科大学シンボルマークについて（理事長裁定）
- ・愛知医科大学病院部長会規程

ダイバーシティ推進委員会規程の制定等

本学における男女共同参画及びダイバーシティの更なる推進を図ることを目的として、ダイバーシティ推進委員会を設置するため、以下の関係規則が整備されました。

【新規制定】

- ・愛知医科大学ダイバーシティ推進委員会規程

【一部改正】

- ・臨床系女性教員の特別短時間勤務について（理事長裁定）

公印規程の一部改正

学校法人愛知医科大学公印規程の一部が改正され、新たに研究創出支援センター長の公印が整備されました。

施行日は令和3年2月4日

育児休業等に関する規程の一部改正

学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程の一部が改正され、この規程の適用となる職員の範囲が改められました。

施行日は令和3年4月1日

パート職員就業規則の一部改正

学校法人愛知医科大学パート職員就業規則の一部が改正され、パート職員の雇用期間及び年次有給休暇の取得について改められました。

施行日は令和3年4月1日

臨床研修医の服務、処遇等に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院臨床研修医の服務、処遇等に関する規程の一部が改正され、研修手当等が改められました。

施行日は令和3年4月1日

医学部教員選考規程の一部改正

愛知医科大学医学部教員選考規程の一部が改正され、准教授又は講師について、専門分野の変更を伴わない配置換を行う際の手続等が整備されました。

施行日は令和3年4月1日

医学部教務委員会規程の一部改正

愛知医科大学医学部教務委員会規程の一部が改正され、委員構成が改められました。

施行日は令和3年4月1日

医学部学生生活委員会規程の一部改正

愛知医科大学医学部学生生活委員会規程の一部が改正され、委員構成が改められました。

施行日は令和3年4月1日

学長による研究活動に関する規程の制定

愛知医科大学学長による研究活動に関する規程が制定され、学長が外部資金を獲得して研究を行うことに関し、必要な事項が定められました。

施行日は令和3年4月1日

「医学研究に関する倫理講習会の取扱いについて」の一部改正

令和3年2月25日付で「医学研究に関する倫理講習会の取扱いについて」（医学部長裁定）の一部が改正され、講習会出席に代わる受講方法がネットワークによる動画視聴に改められました。

連携大学院制度の活用に係る関係規則の整備

学生が、最新の設備を持つ他の研究機関において、大学院の研究指導を受けることができる連携大学院制度を活用するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学における連携大学院制度の運用に関する規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学大学院医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科担当教員資格審査規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科履修規程

看護学部履修規程の一部改正

愛知医科大学看護学部履修規程の一部が改正され、令和4年度カリキュラム改正に関し、必要な事項が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

看護学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科履修規程の一部が改正され、令和3年度入学生の授業科目等が整備されました。

施行日は令和3年4月1日

臨床研究審査委員会規程の制定等

現行の臨床研究審査委員会の認定期間が令和3年6月7日に終了することを受け、新たな臨床研究審査委員会を立ち上げ、旧委員会から審査等の引継ぎ等を行うため、以下の関係規則が整備されました。

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院臨床研究審査委員会規程

施行日は令和3年1月1日

【廃止】

- ・愛知医科大学病院臨床研究審査委員会規程（平成30年5月18日施行）

廃止日は令和3年6月7日

看護師特定行為研修管理規程の一部改正等

病院で実施している看護師特定行為研修の領域として、新たに「創傷管理領域」を追加するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年4月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院看護師特定行為研修管理規程
- ・愛知医科大学病院看護職員奨学金貸与規程

メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、診療科として新たに疼痛緩和外科が追加されました。

施行日は令和3年5月1日